

# クボタロータリ

## 取扱説明書

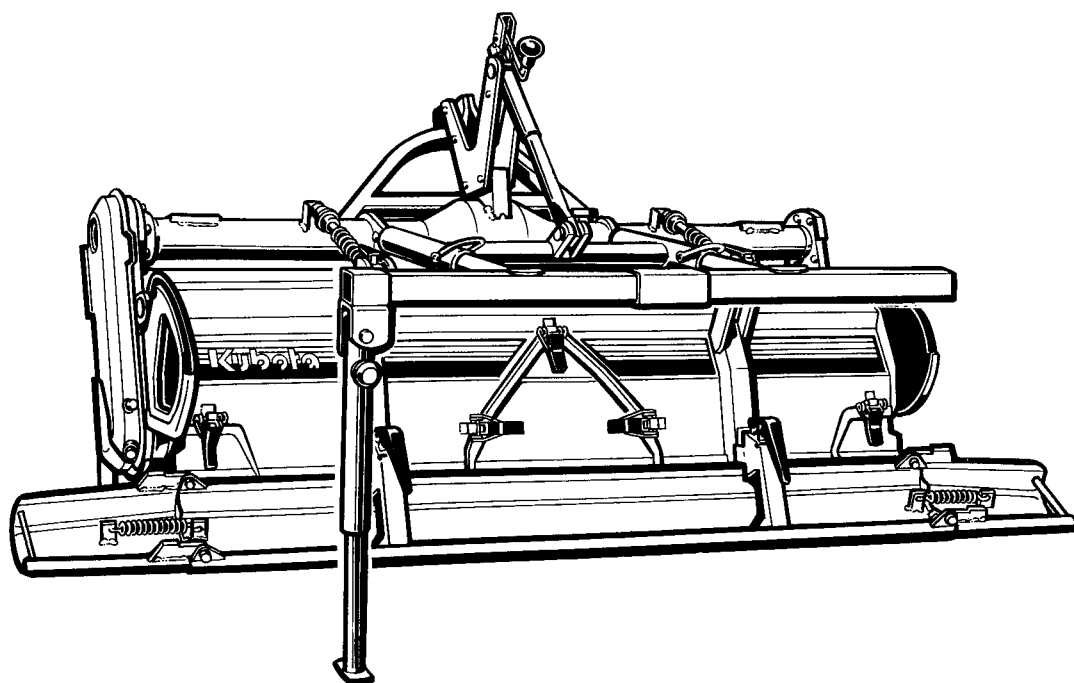
# RL

4(BO)(X)(F)(A)G

5(BO)(X)(F)(XF)G

6(BO)(X)(F)(XF)G(E)

7(BO)(X)G(E)



G-4086



安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください  
いつまでも大切に保管してください

# はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。  
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

## ▲ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお，▲表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

### ■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。



**警告**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



**注意**： 注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

**重要**： 注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

**補足**： その他，使用上役立つ補足説明を示します。

## 仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。

なお、説明はRL6Gを基本とし、RL6Gと取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 標準タイプ ..... 一般向け  
(RL4G, RL5G, RL6G, RL7G)
- BOタイプ ..... 爪ワンタッチ着脱式  
(RL4BOG, RL5BOG, RL6BOG, RL7BOG)
- Xタイプ ..... 正逆転ロータリ  
(RL4XG, RL5XG, RL6XG, RL7XG)
- Fタイプ ..... 細土爪軸付  
(RL4FG, RL5FG, RL6FG, RL5XFG, RL6XFG)
- Bタイプ ..... 後2輪付, (他はスタンド付)
- Aタイプ ..... 細土爪軸付, 4号培土用カバー付  
(RL4AG)
- Eタイプ ..... イスペシャル  
(RL6G-E, RL7G-E)ロータリ単体販売無し
- カバータイプ
  - ・ 標準 ..... 畝立機用長穴付
  - ・ V ..... Vカット付
  - ・ SC ..... マドレスカバー・畝立機用長穴付
  - ・ SCV ..... マドレスカバー・Vカット付

# 目次

## ▲安全に作業するために … ▲-1

サービスと保証について …… 1

ロータリの着脱のしかた …… 1

取付け前の準備 …… 1

トップリンクサポートの取付け  
(補助ユニット関連部品) …… 3

トラクタへの装着 …… 3

ロータリの取外し方 …… 8

標準ロータリの上手な使い方 … 9

適応作業速度 …… 9

なた爪の取付け方 …… 9

マッドレスロータリの取扱い  
(SC仕様) …… 12

正逆転ロータリの上手な使い方  
(Xタイプ) …… 13

適応作業速度 …… 13

正逆爪の取付け方 …… 14

正転・逆転耕うんのしかた …… 15

ロータリの調整 …… 18

ロータリカバーの調整 …… 18

耕深の調整(後2輪仕様) …… 20

後2輪の調整(後2輪仕様) …… 20

スプリングロックの調整 …… 22

オートハンガの調整 …… 23

フローティング装置  
(Aタイプ以外は別売オプション) … 24

ロングカット爪の取付け  
(別売オプション) …… 25

畝立機の取付け …… 26

片培土機の取付け …… 28

逆転PTOの使用法 …… 29

爪軸交換のしかた …… 29

普通爪の使用 …… 30

作業前の点検について  
(日常点検) …… 31

点検箇所 …… 31

点検のしかた …… 31

ロータリの簡単な  
手入れと処置 …… 32

定期点検箇所一覧表 …… 32

各部の油量点検と交換 …… 33

グリースの補給 …… 34

シールの組換え …… 35

付表 …… 36

主要諸元 …… 36

標準付属品 …… 37

使用補助ユニット一覧表 …… 38

アタッチメント一覧表 …… 39

推奨オイル・グリース一覧表 …… 42

主な消耗部品一覧表 …… 43

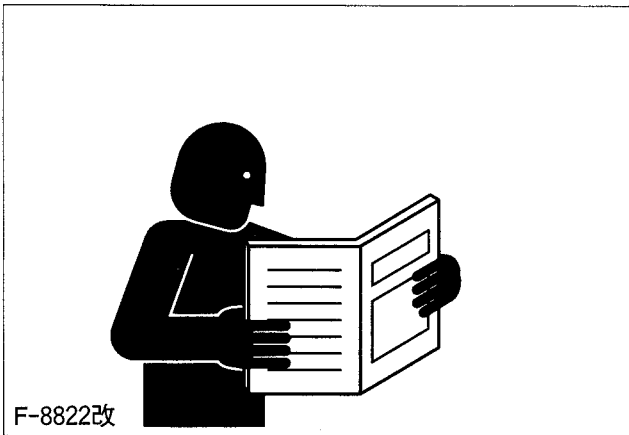
# ▲ 安全に作業するために

必ず読んで  
ください

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

## 1. ロータリを使用する前に

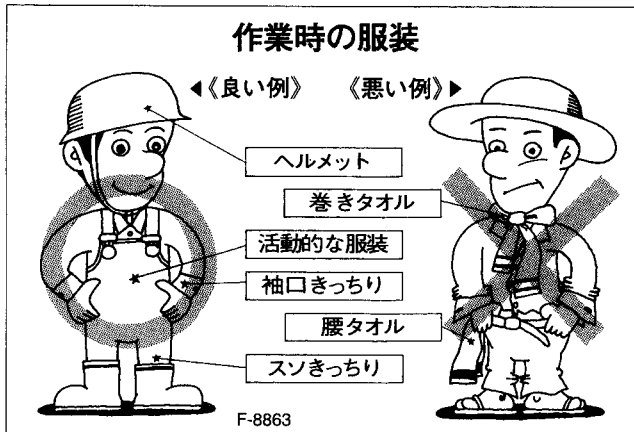
- (1)ロータリを使用する前に必ず、この取扱説明書とトラクタ本機の取扱説明書、及び、機械に貼つてある▲表示ラベルをよく読み、理解した上で作業してください。
- (2)ロータリを他人に貸すとき、また、他人に作業を依頼するときは、事前に操作のしかたを教え、本書を読ませてください。
- (3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対に作業させないでください。



- (4)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。

回転部分や操縦装置に引っかかり事故の原因になります。

安全のため、ヘルメット、安全靴、保護めがねや手袋などを必要に応じて使ってください。

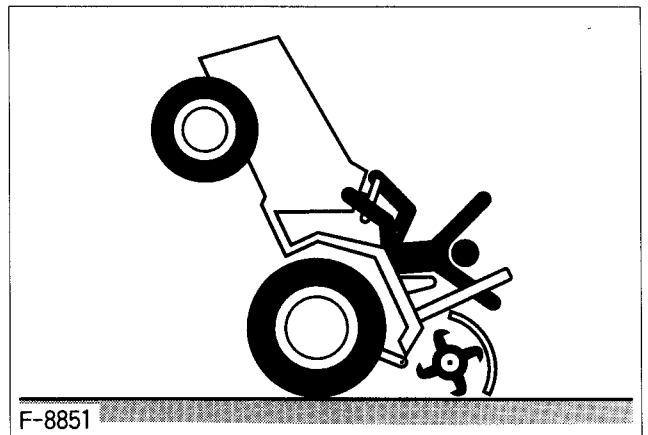


## 2. ロータリの着脱時

- (1)PTOを中立にして平坦な場所で行なってください。
- (2)トラクタとロータリの間に立たない、また立たせないでください。  
挟まれるおそれがあります。

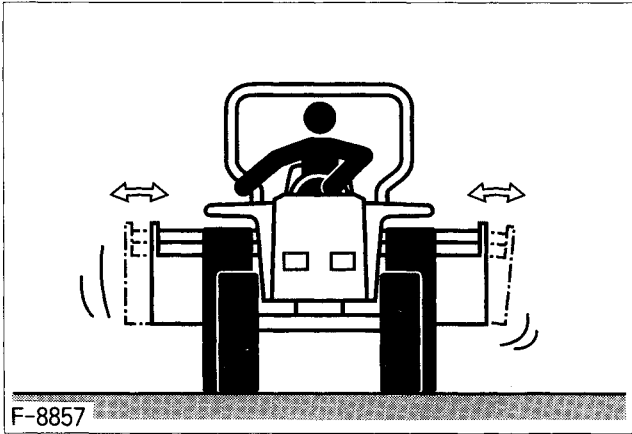


- (3)二人作業の場合はお互いに合図しあい、注意して作業してください。
- (4)3点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが確実にセットされていることを確認してください。
- (5)装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なりますので、前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。  
前輪が浮上がり事故の原因になります。



# ⚠ 安全に作業するために

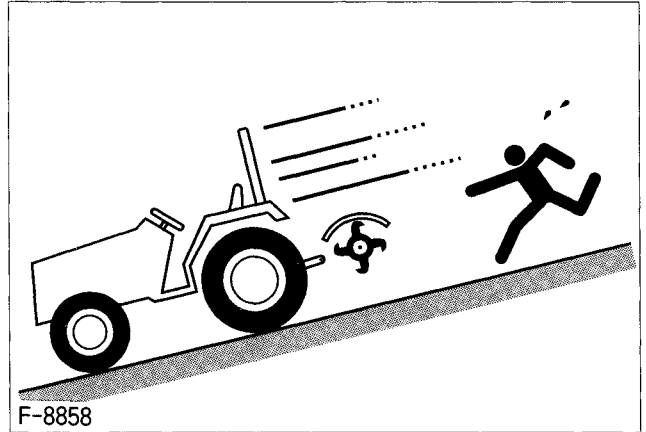
- (6)ロアーリンクのチェックチェーンはロータリが左右に2~3cm動く程度に調節してください。  
走行時、ロータリが揺れてバランスをくずし事故の原因になります。



F-8857

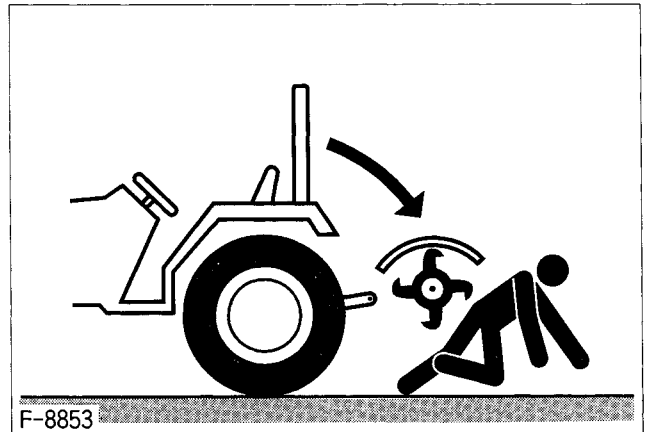
## 3. 耕うん爪の点検や交換及び調整時

- (1)トラクタを平坦な場所に置いてください。  
(2)駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してください。  
トラクタが動き出すおそれがあります。

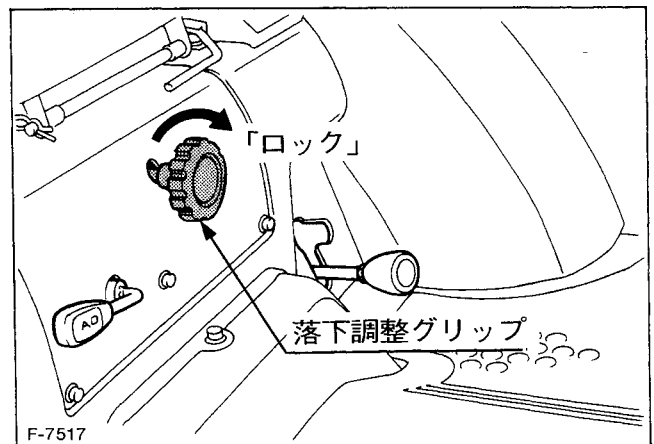


F-8858

- (3)ロータリの落下防止のため油圧ロックをしてください。  
ロータリが落下するおそれがあります。



F-8853



F-7517

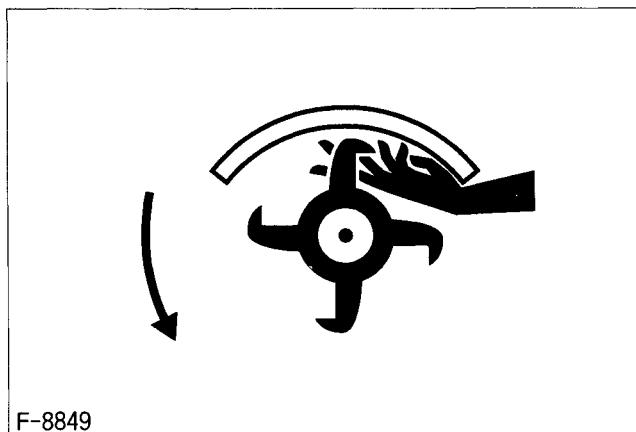
#### 4. 運転時

(1)安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又紛失したり損傷した場合、交換してください。

巻込まれや、切傷事故の原因になります。

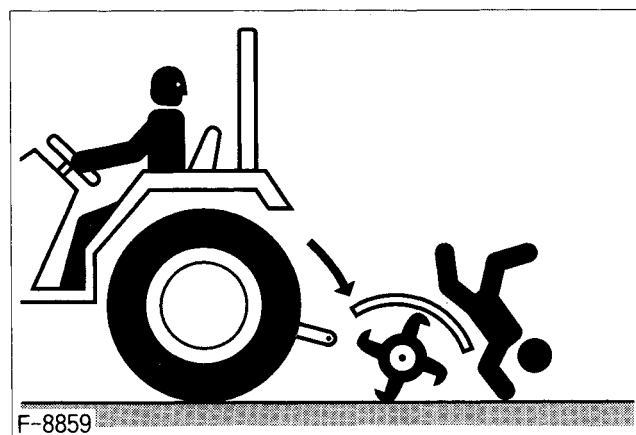
(2)ユニバーサルジョイント、爪軸等回転部分には近づかないでください。

裂傷・巻込まれ等、事故のおそれがあります。



F-8849

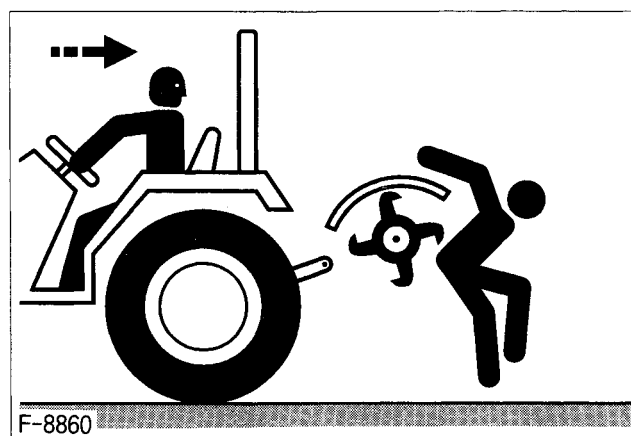
(3)ロータリの上に人を乗せないでください。



F-8859

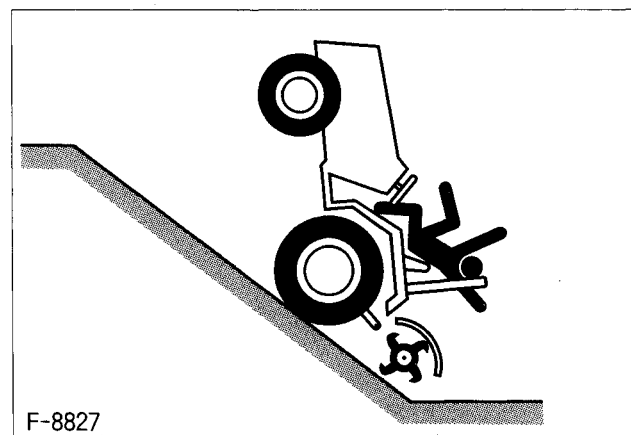
(4)必ず座席に座ってロータリ作業を行なってください。作業中、トラクタの飛降り、飛乗りは重大事故につながります。

(5)ロータリを持上げ、バック及び急旋回するときは、周囲の安全確認を行なってください。



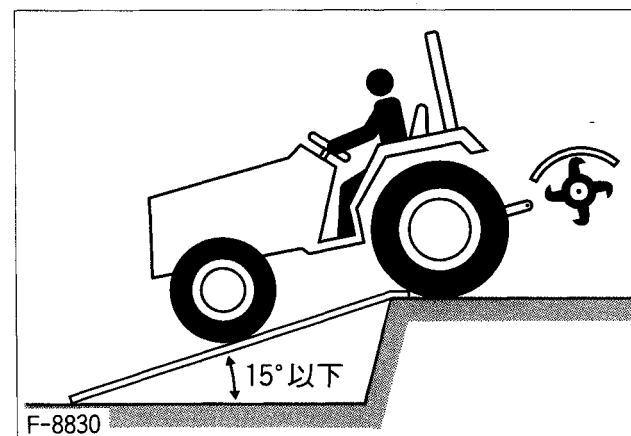
F-8860

(6)傾斜地やあぜを登るときは、転倒防止のためロータリを下げ、前輪の浮上りを防いでください。



F-8827

(7)ほ場の出入りなどで、高低差の大きい急傾斜の登り降りや、溝越えが必要な場合、あゆみ板を使用し、確実に固定してから低速で行なってください。

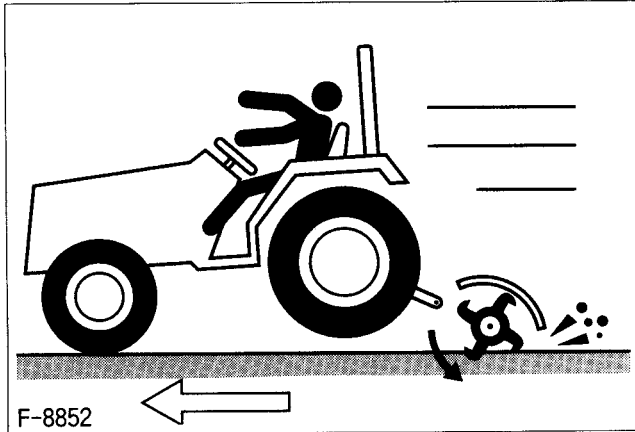


F-8830

傾斜が15°以下になる長さのものを使用する。

# ⚠ 安全に作業するために

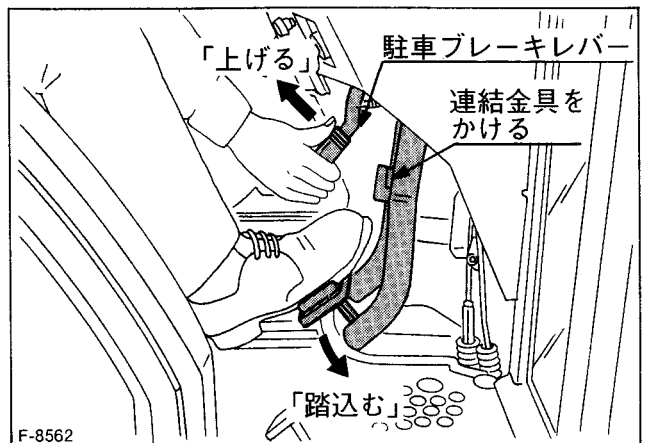
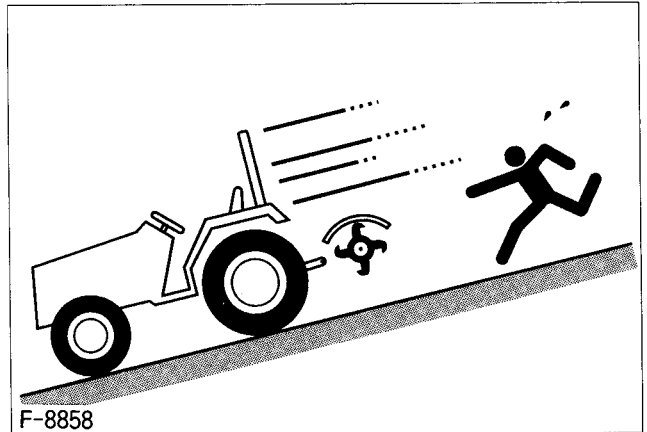
- (8) 耕うん中、硬いほ場でトラクタが前に飛出した場合、すぐクラッチを切り、ブレーキを踏んでください。次に、より遅い車速に変速し、爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。2輪駆動、4輪駆動の切り換え可能なトラクタは、4輪駆動にしてください。



- (9) ロータリをトラクタに装着して公道を走行できません。(道路運送車両の保安基準)  
作業機を装着して走行すると、他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。


## 5. 格納時

- (1) トラクタを平坦な場所に置いてください。
- (2) ロータリを下げ、地面に接地させてください。ロータリが落下するおそれがあります。
- (3) 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してください。  
トラクタが動き出すおそれがあります。



## 6. ▲表示ラベルと貼付位置

①品番7C705-5646-2

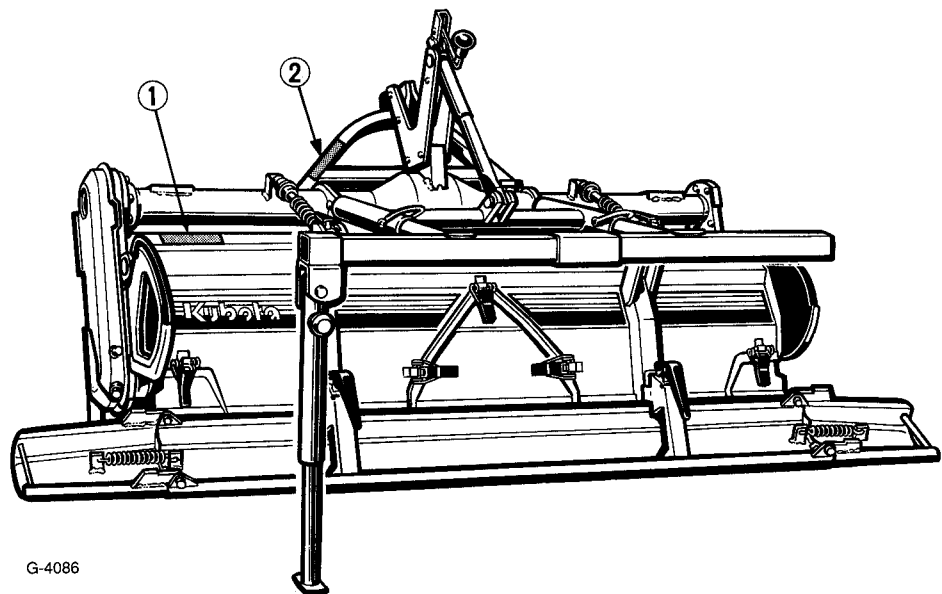
▲ 注 意	▲ 警 告
<p>傷害事故防止のため取扱説明書を読んで正しく取扱うこと</p> <p><b>着脱時</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTOを中立にして、平坦な場所で行うこと</li> <li>・トラクタとロータリの間立たないこと</li> <li>・三点リンクまたは二点リンクの止ピンやユニバーサルジョイントのロックピンがはずれていないか確認すること</li> </ul> <p><b>爪の交換および点検・調整時</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦な場所で駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止すること</li> <li>・ロータリ落下防止のため、トラクタの油圧ロックをすること</li> </ul> <p><b>作業時</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロータリの上に人を乗せないこと</li> <li>・バックや旋回の際は、周囲の安全を確認すること</li> <li>・傾斜地や畦を登るときはロータリを下げて、前上りを防ぐこと</li> </ul>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>ロータリの回転部に接触すると、巻き込まれやケガをする恐れがあるので回転部に近づかないこと</p>

②品番7C705-5881-1

**▲ 警 告**



ユニバーサルジョイントに接触すると、巻き込まれやケガをする恐れがあるので近づかないこと



## 7. ▲表示ラベルの手入れ

- (1)ラベルは、いつもきれいにしておいて傷つけないようにしてください。  
もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- (2)破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- (3)ラベルが貼付けされている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。
- (4)新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

# サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

## ■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先に、それぞれ“**ご相談窓口**”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

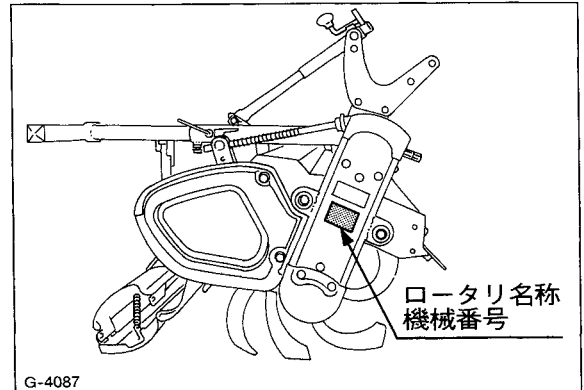
その際、ロータリ名称と機械番号を併せてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



## 警告

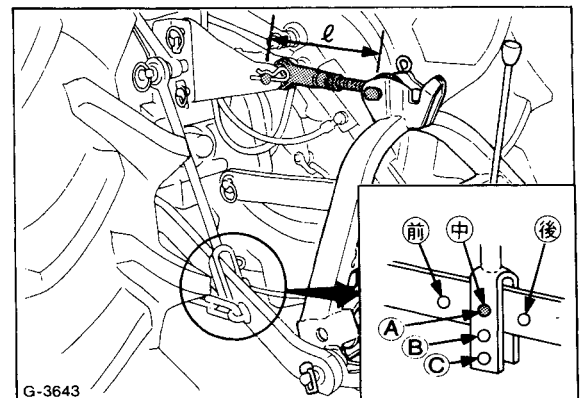
- \*機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。



# ロータリの着脱のしかた

## 取付け前の準備

- (1)補助ユニット(トップリンクサポート、トップリンクなど)が、装着されているかを確認してください。装着されていないときは、“**トップリンクサポートの取付け**”の項を参照の上、装着してください。
- (2)装着するトラクタにより、トップリンク長さが異なりますので、右図と次ページの表、又はトップリンクサポートに貼付けてある、ラベルを確認の上、点検・調整してください。



## 注意

- \*トップリンク長さ、ロアーリンク穴位置、リフトロッド穴位置を間違えると、ジョイント抜けやトップリンクの破損等による傷害事故のおそれがあります。
- \*前部ウエイトの指示がある場合、トラクタに必ず取付けてください。トラクタの前輪が浮上がり、事故の原因になります。

## ■ロータリの取付け方法と適応形式

(この表は一般的な組み合わせを示しています。)

トラクタ形式	GL200	GL220	GL240	GL240J GL260 GL268	GL260K	GL280K	GL280	GL280J GL280Q GL300	GL320 GL338
ロータリ形式	RL4(X)(F)(BO)G			RL6(X)(F)(BO)G(E)					
	RL5(X)(F)(BO)G				RL7(X)(BO)G(E)				
	RL4AG								
補助ユニット	スーパージョイント付	U205Q-6RF		U265Q-6RF	U26KQ-6RF	—	U265Q-6RF	U305Q-6RF	
	スーパージョイント無	U195-6RF		U255-6RF	U255K-6RF	U235K-5RF	U255-6RF	U295-6RF	
トップリンク長さ“ℓ”寸法(mm)	230			240	235	220	240		
リフトロッド左, 右の取付穴	Ⓐ				Ⓑ		Ⓐ		
ロアーリンク取付穴	Ⓜ				Ⓨ		Ⓜ		
付加ウエイト (前部ウエイトアッシ 28kg) 99221-1200-1	必要(後2輪仕様ロータリ)								

## ■参考[GLトラクタに装備する場合]

トラクタ形式	GL19	GL21	GL23	GL23DJ	GL25	GL25K	GL26	GL27	GL27DJ	GL29	GL32	GL33
ロータリ形式	RL4(BO)(X)(F)G			RL6(BO)(X)(F)G(E)								—
	RL5(BO)(X)(F)G					RL7(BO)(X)G(E)						
	RL4AG											
補助ユニット	スーパージョイント付	U205Q-6RF		U265Q-6RF		U26KQ-6RF	U265Q-6RF		U305Q-6RF			
	スーパージョイント無	U195-6RF		U255-6RF		U255K-6RF	U255-6RF		U295-6RF			
トップリンク長さ“ℓ”寸法(mm)	230			240		235	240					
リフトロッド左, 右の取付穴	Ⓐ					Ⓑ		Ⓐ				
ロアーリンク取付穴	Ⓜ					Ⓨ		Ⓜ				
付加ウエイト (前部ウエイトアッシ 28kg) 99221-1200-1	必要(後2輪仕様ロータリ)											

◎トップリンク長さ“ℓ”寸法は装着時の目安とし、異音(ガラガラ音)が出る場合は±5mmの範囲で調節してください。

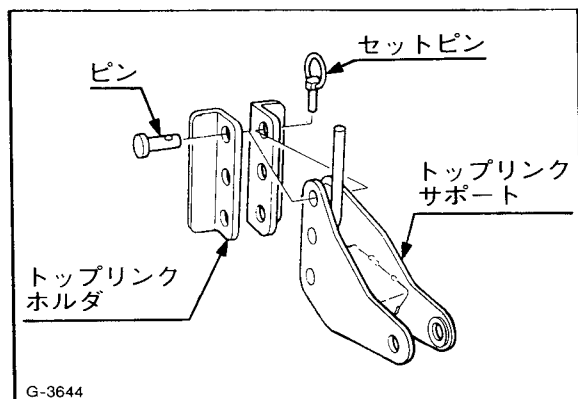
### [補助ユニット]

製品名	コードNo.
U205Q-6RF	7C700-02000
U265Q-6RF	7C700-04000
U26KQ-6RF	7C700-08000
U305Q-6RF	7C700-06000
U195-6RF	70888-01000
U255-6RF	70888-03000
U255K-6RF	70888-07000
U295-6RF	70888-05000
U235K-5RF	70883-00000

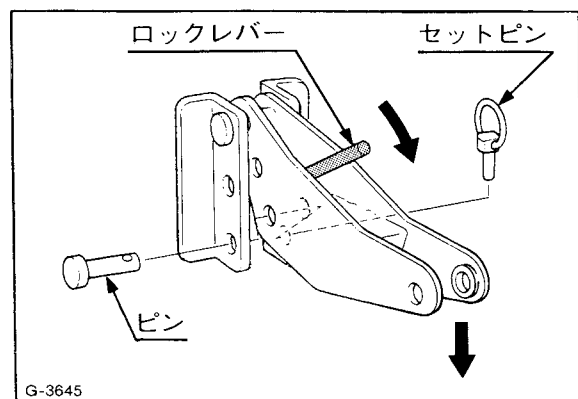
## トップリnkサポートの取付け (補助ユニット関連部品)

### ■取付け方

- ① トップリnkホルダの上穴と、トップリnkサポートの上穴をピンで取付け、セットピンで抜け止めをしてください。(トップリnkサポートの上下を間違わないよう、ラベルの方向、又は補助ユニット一覧表を参照して取付けてください。)



- ② ロックレバーを手前に引き、トップリnkホルダの下穴と、トップリnkサポートの下穴をピンで取付け、セットピンで抜け止めをしてください。



- ③ ロックレバーを前方に戻し、確実にロックしてください。

### ■取外し方

取付け順序の逆に行なってください。

## トラクタへの装着



### 注意

- \*ロータリの取付け・取外しは、PTOを中立にし平坦な場所で行なってください。
- \*トラクタとロータリの間立たないでください。はさまれるおそれがあります。

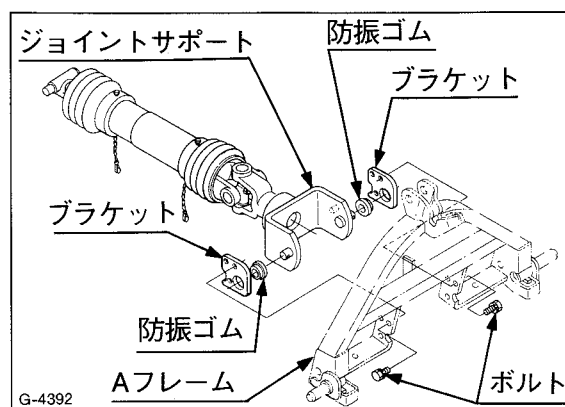
### 重要

- \*安全カバー回転止め鎖でユニバーサルジョイントをつらないでください。

### ■装着前の準備

#### ◆スーパージョイントの組付け

スーパージョイント仕様の場合、まずジョイントサポートの取付けピンに、付属の防振ゴム、ブラケットを挿入し、そのブラケットをAフレームに左右各3個のボルトで締付けてください。



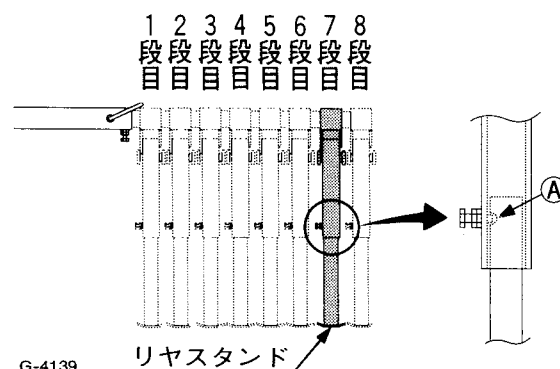
- ◆ロータリを着脱姿勢にしてください。

#### ●スタンド仕様の場合

- (1) リヤスタンドの前後方向の位置は7段目にセットしてください。
- (2) 上下方向の位置はさらもみのA位置にセットしてください。

〔前後位置〕

〔上下位置〕

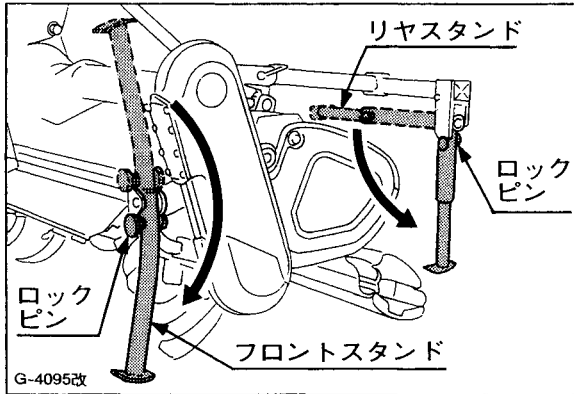


G-4139

リヤスタンド

(3)ロータリの後2輪ハンドルを回し、外管の先端を内管に貼ってある、ラベルの“ロータリ着脱位置”の範囲に合わせてください。

(4)フロントスタンドは下げ位置にセットしてください。



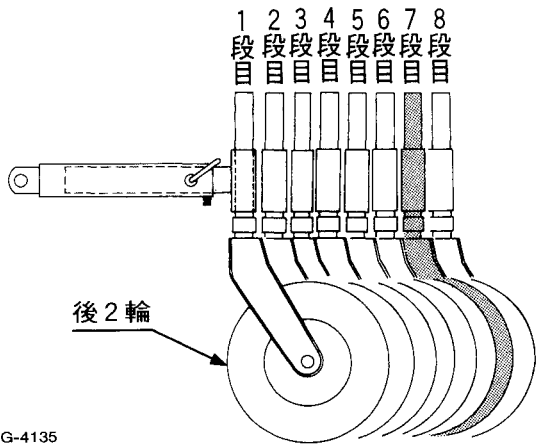
**重要**

\*スタンドは耕うん時、折りたたんでください。

●後2輪仕様の場合

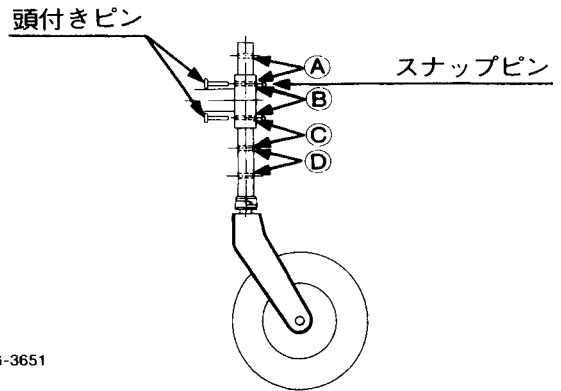
(1)後2輪の前後方向の位置は7段目にセットしてください。

[前後位置]

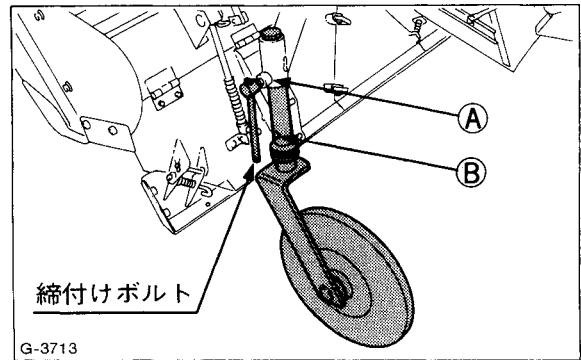


[上下位置]

上下位置は③の位置にセットしてください。(ロングカット爪がセットされている場合は①の位置にセットしてください。)



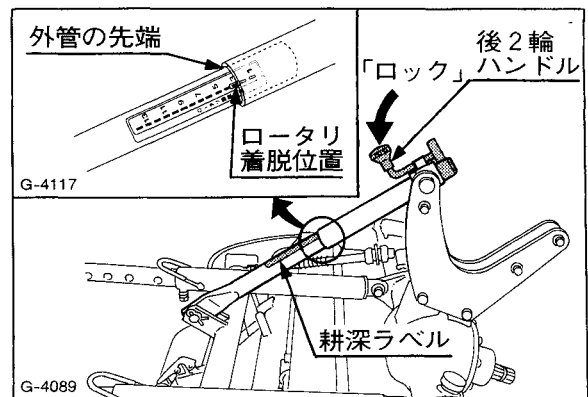
Aタイプ



(2)ロータリの後2輪ハンドルを回し、外管の先端を内管に貼ってある、ラベルの“ロータリ着脱位置”の範囲に合わせてください。

**重要**

\*後2輪ハンドルは、操作後、図の位置にセットしてください。



## ■取付け方

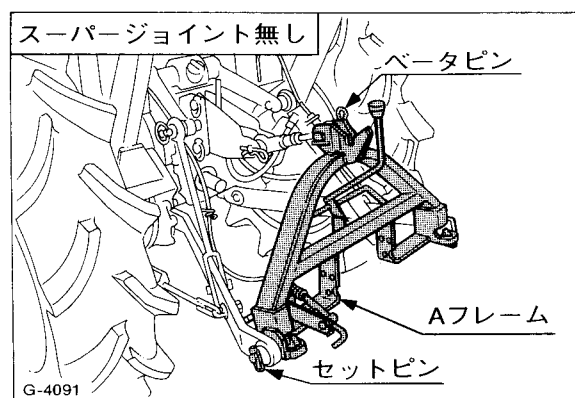
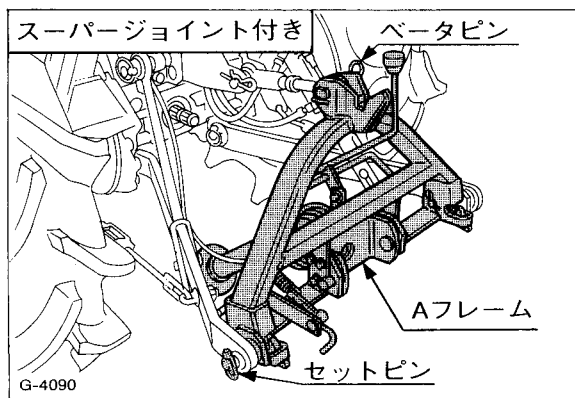
- ①ロアーリンクとリフトロッド取付け位置を確認してください。もし、異なっている場合は取付け前の準備(1ページ参照)に従って取付けてください。



### 注意

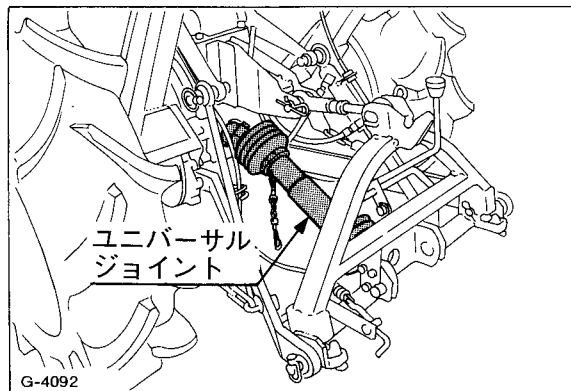
\*ロアーリンクとリフトロッドの取付け穴位置を間違えるとユニバーサルジョイントが破損し傷害事故を引き起こすおそれがありますので、取付け穴位置を再確認してください。

- ②ロアーリンクにAフレームを取付け、セットピンで抜け止めをしてください。
- ③トップリンクの長さ“L”を調節し(2ページ参照)、トップリンクサポートと、Aフレームの上部にそれぞれピンで取付け、ベータピンで抜け止めをしてください。



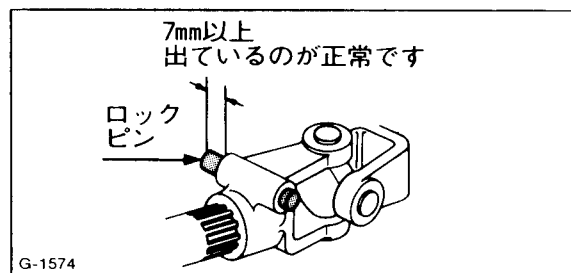
## ④【スーパージョイント付き】

ユニバーサルジョイントを、トラクタのPTO軸に取付けてください。



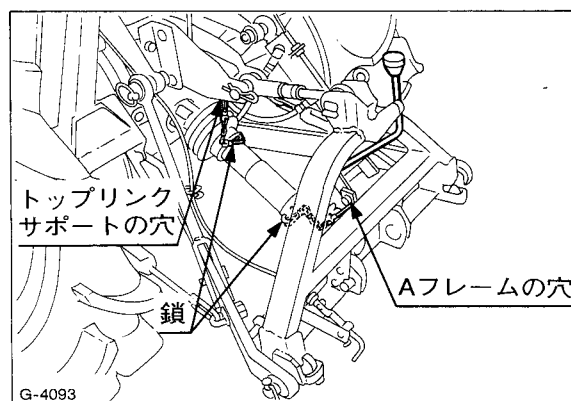
### 注意

\*ユニバーサルジョイントを確実にセットしないと抜けるおそれがあります。ロックピンの頭が7mm以上出ているか確認してください。



## ⑤【スーパージョイント付き】

安全カバー回転止め鎖を取付けてください。ユニバーサルジョイントの鎖を、トラクタ側はトップリンクサポートに、ロータリ側はAフレームの中央部の穴に取付けてください。

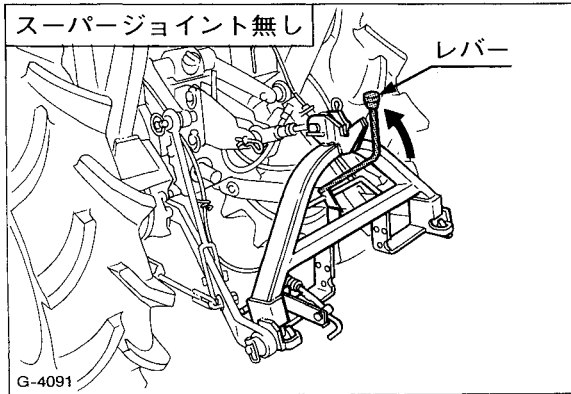
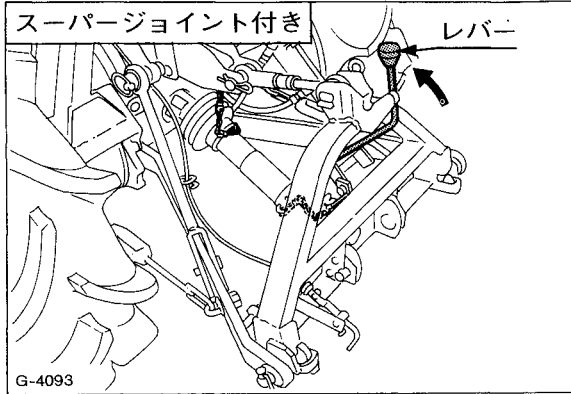


- ⑥ロータリの着脱姿勢を確認してください。(3ページ参照)

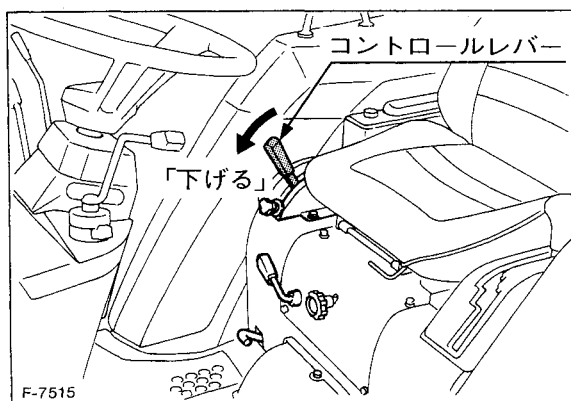
### ⑦【オート仕様トラクタの場合】

ロータリカバー2を最下げの位置にセットしてください。(23ページ参照)

⑧レバー(Aフレーム)を下図の位置にセットしてください。

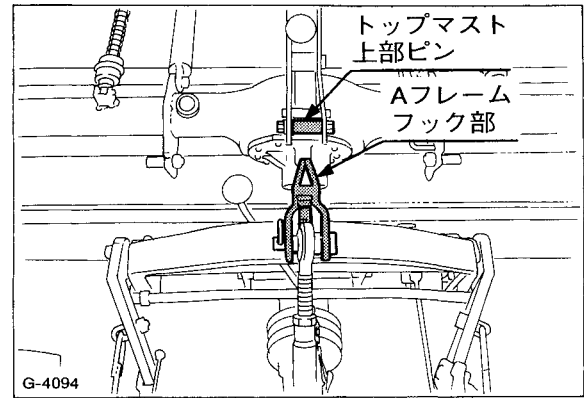


⑨トラクタに乗車して、油圧コントロールレバーを“下げ”方向に操作し、Aフレームを降ろしてください。



⑩Aフレームのフック部先端が、トップマスト上部ピンのやや下(1~2cm)にくるように、油圧コントロールレバーを操作しながらゆっくりバックしてください。

⑪油圧コントロールレバーを、ゆっくり“上げ”方向に操作し、Aフレームのフック部がトップマスト上部ピンに、確実に引掛ったことを確認してから、ロータリを吊上げてください。

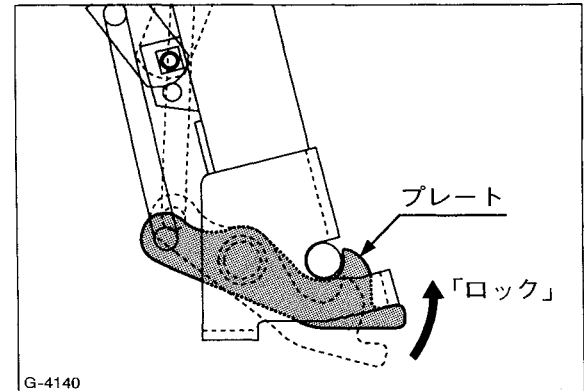


⑫Aフレームでロータリを吊上げると、ロータリは自動的にAフレームに“ロック”されます。



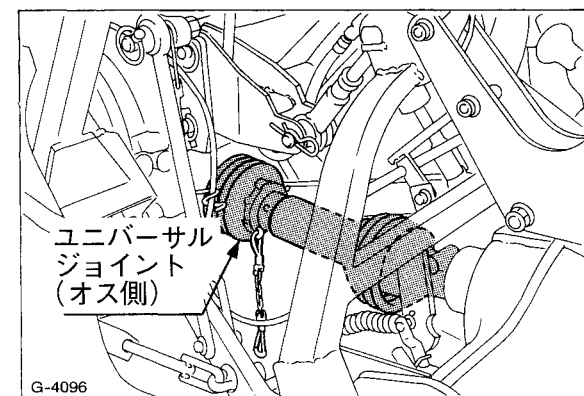
\*プレート(ロック)が確実にロック状態にあるか、確認してください。

ロータリが脱落するおそれがあります。



⑬【スーパージョイント無し】

エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてからユニバーサルジョイントを取付けてください。ユニバーサルジョイントの、オス側のロックピンを指で押えて、トラクタPTO軸の横溝を越すまで差込み、次にメス側をロータリの軸に差込んで、ロックピンでロックしてください。そしてPTO軸側を手前に引き、ロックピンを溝に確実にに入れてください。



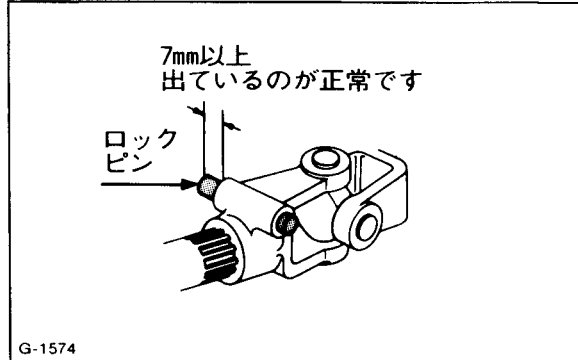
### 重要

\*ユニバーサルジョイントの取付けは、必ずオス側をトラクタ側に、メス側をロータリ側に取付けてください。



## 注意

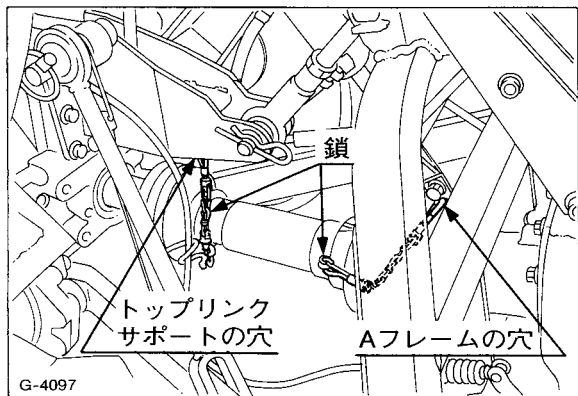
\*ユニバーサルジョイントを確実にセットしないと抜けるおそれがあります。ロックピンの頭が7mm以上出ているか確認してください。



### ⑭【スーパージョイント無し】

安全カバー回転止め鎖を取付けてください。

トラクタ側の鎖は、トップリnkサポートの下部取付け穴に、ロータリ側は、Aフレームの中央部の穴に取付けてください。

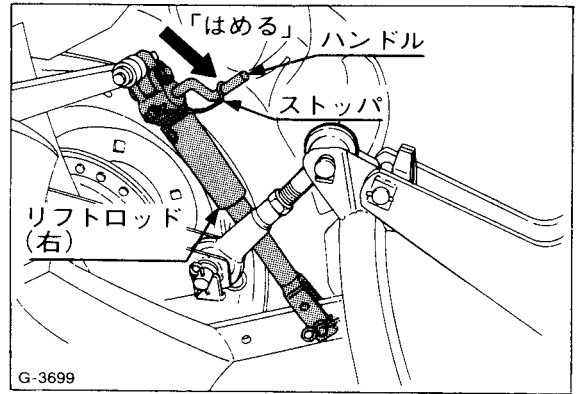


### ⑮リフトロッド(右)を調節してください。

#### 【モンローマチック付は調節不要】

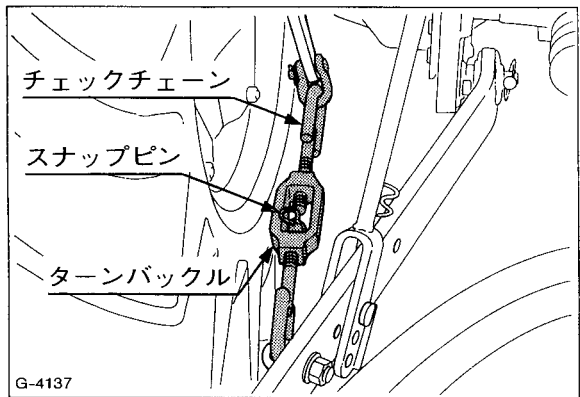
トラクタのコントロールレバーで、ロータリを持上げて、ロータリの爪軸が、トラクタの車軸と平行になるように、リフトロッド“右”を回して調節してください。(調整時はエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。)

調節後、リフトロッド“右”が自由に回転しないように、ストoppaで固定してください。



### ⑯チェックチェーンを張ってください。

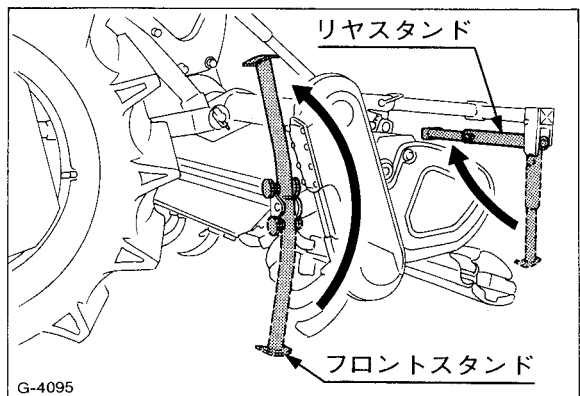
エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてからユニバーサルジョイントが、上から見て一直線になるように、チェックチェーンを左右均等に保ち(ロータリが横方向に2~3cm動く程度)、スナップピンでロックして、ロータリの横振れを制限してください。



### ⑰ロータリを持上げて、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてからPTO変速レバーを“中立”にして、ユニバーサルジョイントが手で、軽く回るかを確認してください。

### ⑱フロントスタンドとリヤスタンドを格納してください。

※(後2輪仕様には、ありません。)



## ロータリの取外し方



### 注意

傷害事故の防止のため、ロータリ取外し時は次の事を守ってください。

- \*PTOを中立にし、平坦な場所で行なう。
- \*ロータリの着脱時は必ず後2輪又はスタンドを取付ける。
- \*ロータリに寄りかかったり、乗ったりしない。

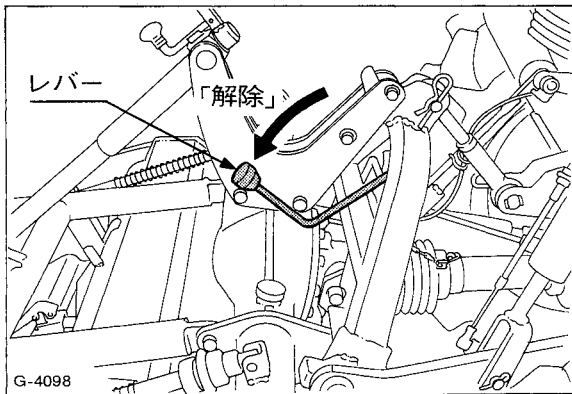
### ①【スーパージョイント無し】

エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてからユニバーサルジョイントを取外してください。

### ②【オート仕様トラクタ】

ロータリカバー2を最下げの位置にセットしてください。(23ページ参照)

### ③レバー(Aフレーム)を解除の位置にしてください。



### ④ロータリを下げ、ロータリとAフレームを分離します。他は取付け順序の逆に行なってください。

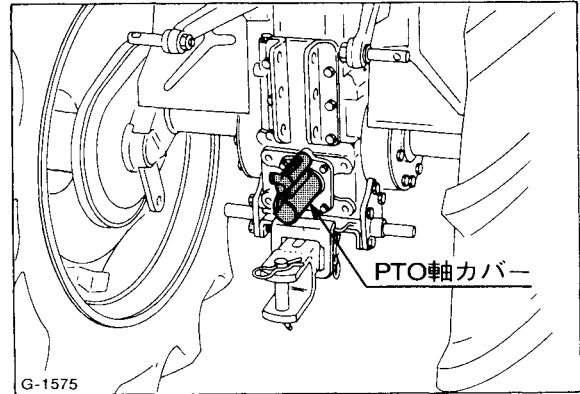
### 補足

- \*長期間保管するときや洗車後は、錆付き防止のため必ず一度ロータリを取外し、ユニバーサルジョイント側ジョイントスプライン部と、ロータリ側入力軸に、グリースを塗布してください。



### 注意

- \*Aフレームからロータリを外した状態で、PTO軸を回転させない。
- \*PTO軸を使わない場合は、PTO軸カバーを取付ける。



# 標準ロータリの上手な使い方



## 警告

- \*ロータリのユニバーサルジョイントと、耕うん爪に接触すると巻込まれ等の死傷事故のおそれがあります。回転中は近づかないでください。
- \*必ず座席に座って、ロータリ作業を行なってください。作業中、トラクタの飛降り、飛乗りは重大事故につながります。
- \*ロータリの上に人を乗せたり、運転者以外の人をトラクタに乗せたりしないでください。転落、巻込まれなど、重大事故の原因になります。



## 注意

- \*ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

## 適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合わせて、車速を決めてください。次表は、作業のめやすとして参照してください。  
[標準トラクタ]

変速レバー位置と作業						
クリーブ 変速	副変速	主変速	P T O 変速			
			1段	2段	3段	4段
L	L	4	超細土耕うん			
L	H	1	強粘土 (荒耕し耕うん)		水田・畑作 (細土耕うん)	水田・畑作 (畝立て)
		2				
		3				
H	L	4	水田・畑作 (荒耕し)		水田・畑作 (畝立て)	
		1	畝立て		畝立て	
		2	代かき			
		3				
		4				

[Uシフト仕様トラクタ]

変速レバー位置と作業						
クリーブ 変速	主変速	P T O 変速				
		1段	2段	3段	4段	
L	4	超細土耕うん				
L	5	強粘土 (荒耕し耕うん)		水田・畑作 (細土耕うん)	水田・畑作 (畝立て)	
	6	畝立て				
	7					
H	8	水田・畑作 (荒耕し)		水田・畑作 (畝立て)		
	1	畝立て		畝立て		
	2	代かき				
		3				
		4				

## なた爪の取付け方

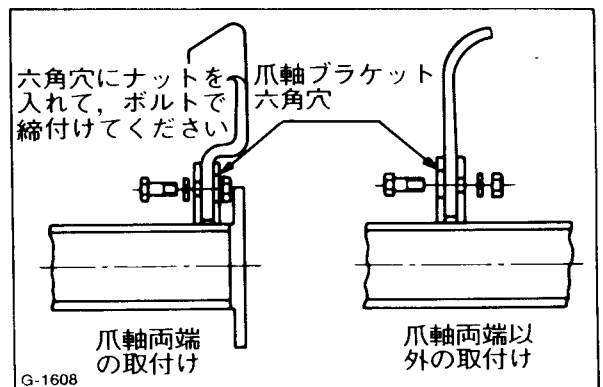
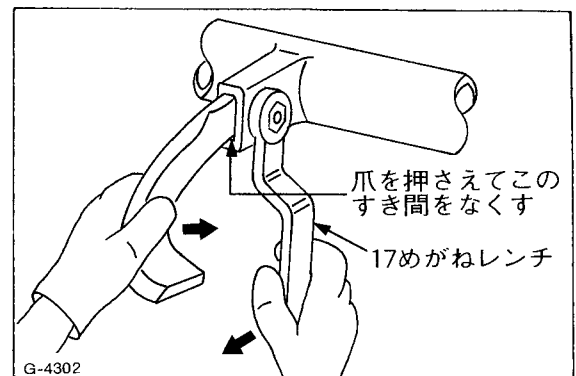


## 注意

- 傷害事故の防止のため、爪の交換及び増締めをする場合、次の事を守ってください。
- \*トラクタを平坦な広い場所に置く。
- \*エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。
- \*ロータリの落下防止のため、落下調整グリップを右いっぱい回して締む。
- \*爪軸の下に木の台などをし、より安全性を確保する。
- \*ボルト・ナットを締付ける場合は、めがねレンチが確実に入ったか確認する。

なた爪の取付けは、オートハンガを利用して、ロータリカバー2をロックすると便利です。(23ページ“オートハンガの調整”の項を参照してください。)

## ■一般タイプ



**補 足**

\* 爪軸両端に取付ける58C号爪(増幅爪左右各1本)は大きい爪ブラケットに取付けてください。

\* めがねレンチで、力いっぱい締付けてください。

【締付けトルク7840~8820N・cm(800~900kgf・cm)】

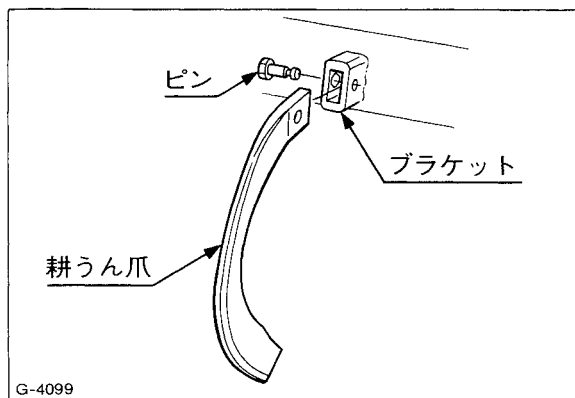
\* 爪を抜いて作業すると、爪のバランスが狂い、振動や騒音が出ることがありますので、ご注意ください。

\* 耕うん爪は、クボタ純正部品を使用してください。

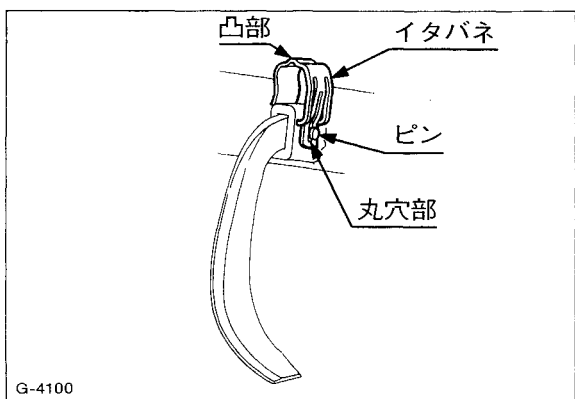
**■爪ワンタッチ着脱タイプ****◆爪軸両端以外の取付け方**

(両端は一般タイプと同様です。)

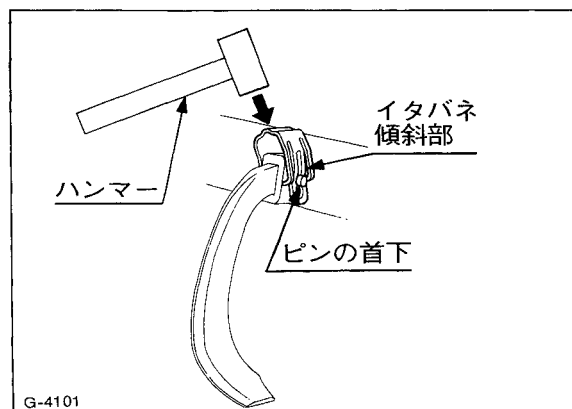
① 耕うん爪をブラケットに挿入し、ピンを六角穴側から差込んでください。



② イタバネの凸部を耕うん側にしてイタバネの丸穴部をピンに合せ、ブラケットにだき合せてください。

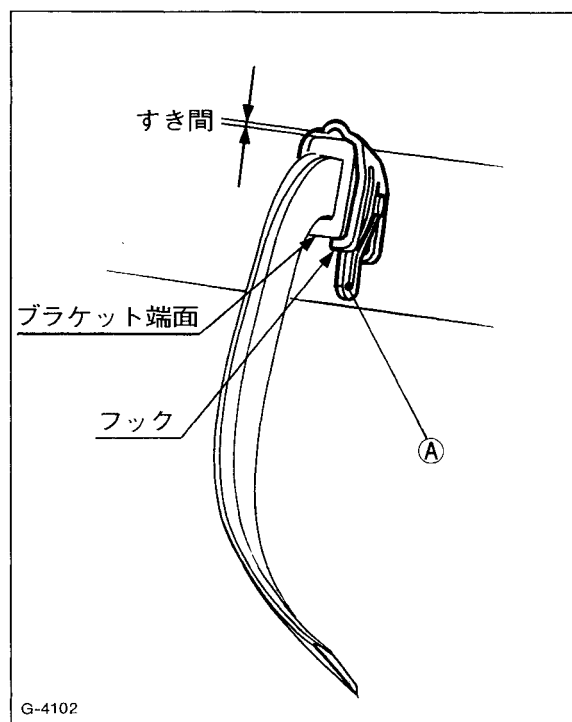


③ イタバネの傾斜部が、ピンの首下にかかるようにイタバネを斜めに倒して手で押込んだあと、イタバネの凸部をハンマーで矢印の方向にたたきこんでください。



④ フック部がブラケット端面に確実にかかるまでイタバネをたたきこんでください。このとき図示部のすき間はほぼ0になります。

取外す場合はイタバネのⒶ部をハンマーでたたいてください。イタバネがブラケットから外れます。



**重要**

\* 耕うん前には必ずイタバネのフックがブラケットに  
 確実にはめこまれているか確認してください。もし、  
 はまっていない場合は、ハンマーでたたきこんでく  
 ださい。

\* イタバネ又は、ピンが摩耗すると耕うん中に爪とブ  
 ラケットの接触音(カタカタ音)が発生する可能性が  
 あります。この場合は、速やかに新品のイタバネ又  
 はピンと交換してください。

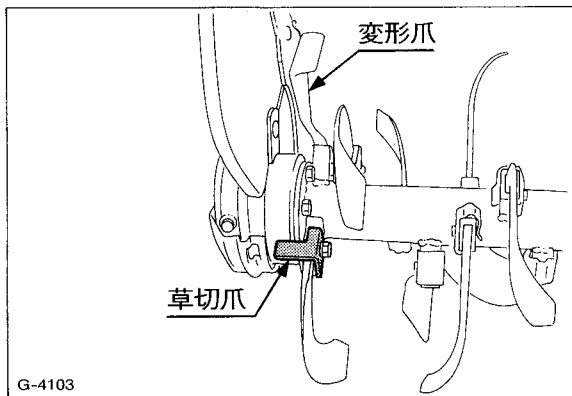
\* 石の多いほ場では、爪ワンタッチロータリの使用を  
 控えてください。

**◆爪取付け金具の寿命確認**

耕うん終了時、ロータリを上げて空転させ、爪のゆる  
 むみがないか確認してください。爪のカタカタ音がす  
 る場合は、エンジンを停止し、イタバネを外し、ピン  
 の位置をかえてもう一度装着しなおして空転させてく  
 ださい。それでも爪のカタカタ音がなおらない場合は  
 取付け金具の寿命ですので、すみやかに新品と交換し  
 てください。

**■草切爪(Eタイプを除く)**

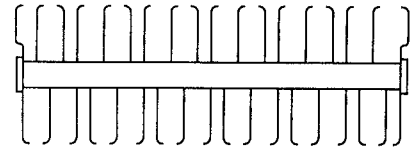
両端の58A号爪には付属の草切爪(R, L)をそれぞれ  
 白色の爪取付けボルトで共締めしてください。チェー  
 ンケース側、サイドフレーム側に各1個取付けてくだ  
 さい。

**①均平耕法(耕起・細土・代かき・整地作業)**

爪ブラケット六角穴の反対側に爪の曲がりがあるよう  
 参考例に従って取付けてください。

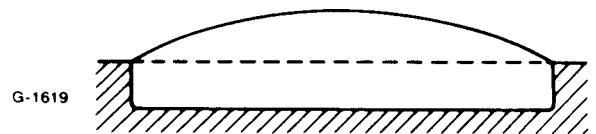
ただし、爪軸両端の4個の爪ブラケット(左右各2個)  
 には六角穴にナットを入れて、ボルトで締付けてくだ  
 さい。

[参考]

**◆RL5G****②1つ盛り耕法(乾土効果を必要とする水田の耕起・細土作業)**

爪軸中央を基準とし、爪はすべて内向きになるよう  
 に取付けてください。

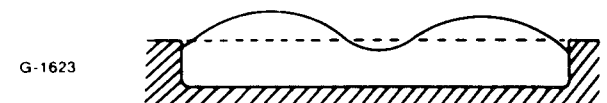
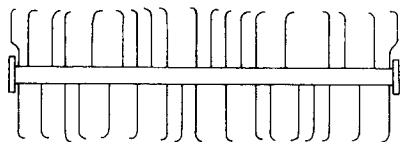
このとき、ロータリカバーを上げて、カバーが耕うん  
 した土壌に当たらないようにします。

**③2つ盛り耕法(乾土効果を必要とする水田の耕起・細土及び1連畝立て作業)**

爪軸中央と両端の間でそれぞれ爪が内向きになるよう  
 参考例に従って取付けてください。

このとき、ロータリカバーを上げて、カバーが耕うん  
 した土壌に当たらないようにします。

[参考]

**◆RL5G**

## マッドレスロータリ of 取扱い (SC仕様)



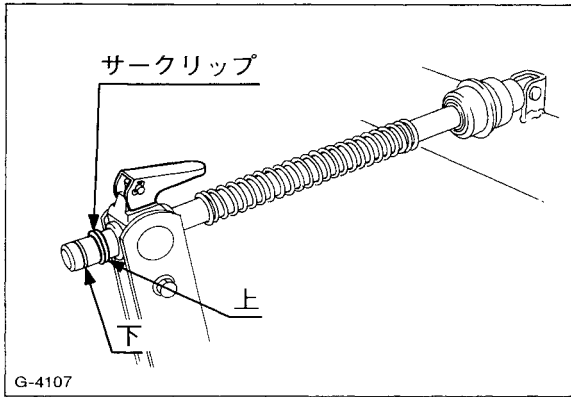
傷害事故の防止のため、ゴムカバーの装着確認をする場合、次の事を守ってください。

- \*トラクタを平坦な広い場所に置く。
- \*エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。
- \*ロータリの落下防止のため、落下調整グリップを右いっぱい回して締込む。
- \*爪軸の下に木の台などをし、より安全性を確保する。

作業前に次の項目を点検してください。

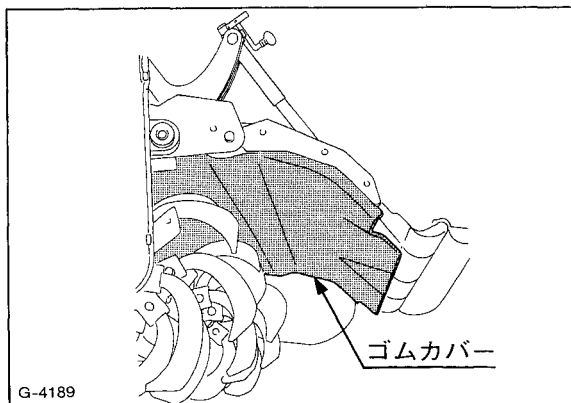
### (1) ロッドのサークリップ位置の確認

ロッドのサークリップが上の位置にあるか確認します。

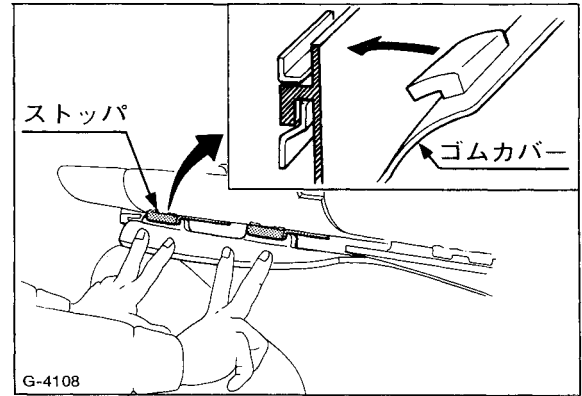


### (2) ゴムカバー装着確認

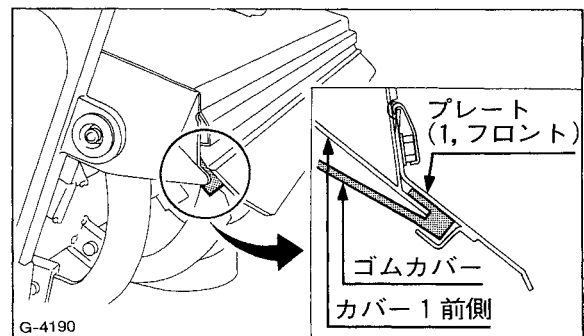
- カバー内面から見てたるみがないか確認します。



- ストップパにしっかりとハマっているか確認します。



- カバー1前側がプレート(1, フロント)にしっかりとハマっているか確認します。



### 補足

\*角張った石の多いほ場では、マッドレスロータリ of の使用を控えてください。

\*ゴムカバーに大きな破れやキズが発生した場合は、すみやかに補修してから使用してください。

#### 補修剤

品名	品番
アースパッチアッシ	07909-4949-9

\*普通爪、ロングカット爪は使用しないでください。

\*ゴムカバーに付着している土を取除く場合、鋭利な物(ナイフ、ドライバー等)の使用はさけてください。

\*ゴムカバー内部に泥が滞留しゴムカバーと耕うん爪が接近する場合は、カバー1前側のプレート(1, フロント)を外してゴムカバー内部の泥を取除いてください。

\*ロータリを地表に降ろしたままバックしないでください。耕うん爪でゴムカバーを損傷させる恐れがあります。

# 正逆転ロータリの上手な使い方(Xタイプ)



## 警告

\*ロータリのユニバーサルジョイント、スーパージョイント、耕うん爪に接触すると巻込まれ等の死傷事故のおそれがあります。

回転中は近づかないでください。

\*必ず座席に座って、ロータリ作業を行なってください。

作業中、トラクタの飛降り、飛乗りは重大事故につながります。

\*ロータリの上に人を乗せたり、運転者以外の人をトラクタに乗せたりしないでください。

転落、巻込まれなど、重大事故の原因になります。

## 適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合わせて、車速を決めてください。

次表は、作業のめやすとして参照してください。

### ■正転耕うんの場合

標準トラクタ			Uシフト仕様トラクタ		変速レバー位置と作業			
クリープ 変速	副変速	主変速	クリープ 変速	主変速	P T O 変速			
					1段	2段	3段	4段
L	L	4	L	4	超細土耕うん			
L	H	1	L	5	強粘土 (荒耕し耕うん) (畝立て)		水田・畑作 (細土耕うん) (畝立て)	
		2		6				
		3		7				
		4		8				
H	L	1	H	1	水田・畑作 (荒耕し) (畝立て)		水田・畑作 (細土耕うん) (畝立て)	
		2		2				
		3		3				
		4		4	代かき			

### ■逆転耕うんの場合

標準トラクタ			Uシフト仕様トラクタ		変速レバー位置と作業			
クリープ 変速	副変速	主変速	クリープ 変速	主変速	P T O 変速			
					1段	2段	3段	4段
L	L	4	L	4	超細土耕うん			
L	H	1	L	5				
		2		6				
		3		7				
		4		8				
H	L	1	H	1	水田・畑地・転作地 細土耕うん			
		2		2				
		3		3				
		4		4				

## 正逆爪の取付け方



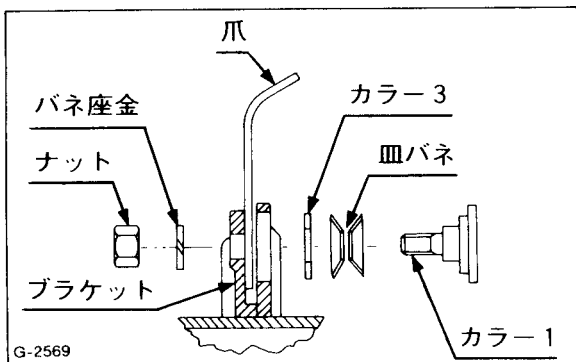
傷害事故の防止のため、爪の交換及び増締めをする場合、次の事を守ってください。

- \*トラクタを平たんな広い場所に置く。
- \*エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。
- \*ロータリの落下防止のため、落下調整グリップを右いっぱい回して締込む。
- \*爪軸の下に木の台などをし、より安全性を確保する。
- \*ボルト・ナットを締付ける場合は、めがねレンチが確実に入ったか確認する。

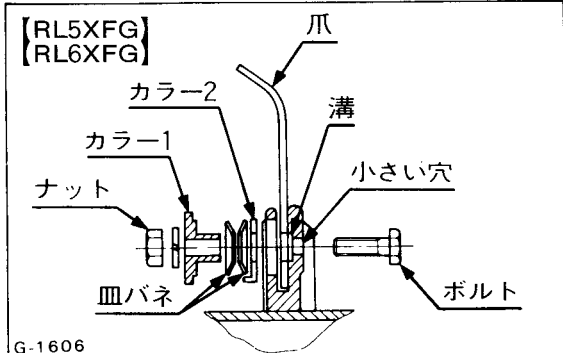
### ①均平耕法

#### ◆左右両端以外の爪

- (1)爪の取付け方向は、ブラケットの大きな穴側に、爪の曲がりがかかるようにします。  
爪にはR、Lがありますので、ロータリ後方から見て、Rは爪の曲がりがかかる右側に、Lは左側になるよう取付けます。
- (2)下図のような順序で各部品を組入れ、ナットで締付けてください。  
(爪を少し動かすと容易です。)
- (3)皿バネは、必ず下図のように組合せてください。



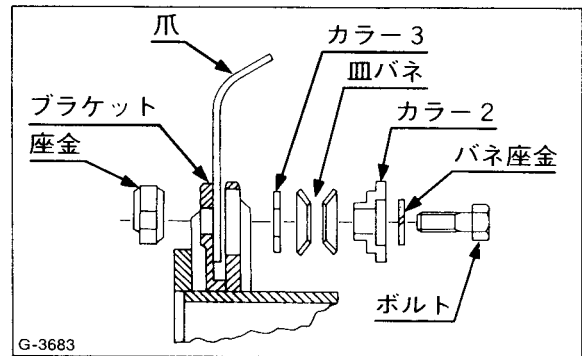
G-2569



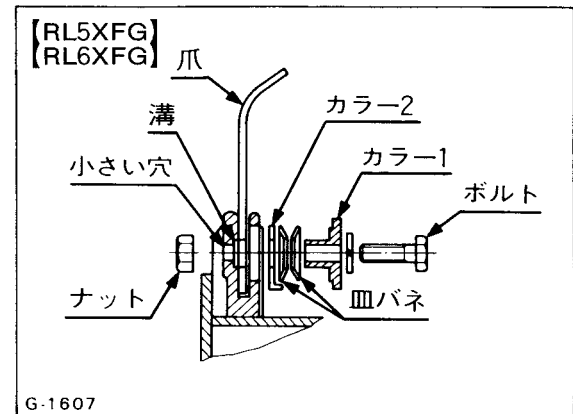
G-1606

#### ◆左右両端の爪

- (1)左右両端の爪は、ボルト側にバネ座金を入れ、ナットの代わりに、ネジ穴のある座金を締付けてください。(RL5XFG, RL6XFGはナットを締付けてください。)
- (2)変形爪(594号正逆爪R・L各1本)は、ブラケットに“H”と打刻してある箇所(白ペンキ塗布)に、取付けてください。



G-3683



G-1607

### ②1つ盛耕法

爪軸中央を基準として爪はすべて内向きになるよう取付けてください。

### ③ 2つ盛耕法

爪軸中央と両端の間でそれぞれ爪が内向きになるよう取付けてください。

※RL5XFG, RL6XFG以外は1つ盛耕, 2つ盛耕は出来ませんので注意してください。(残耕が出来ます。)

#### 補 足

- \* 爪を抜いて作業すると, 爪のバランスが狂い, 振動や騒音が出ることがありますので, ご注意ください。
- \* 耕うん爪は, クボタ純正部品を使用してください。
- \* めがねレンチで, 力いっぱい締付けてください。

#### 【締付けトルク

13720~15680N・cm(1400~1600kgf・cm)】

- \* ナットを締付けるときは, トラクタ側のPTO変速レバーを入れ, ロータリ側の正逆切換えレバーを切替えることにより, 爪軸を正逆回転方向共に, ロックすることができ, 力を入れてナットを締付けることができます。

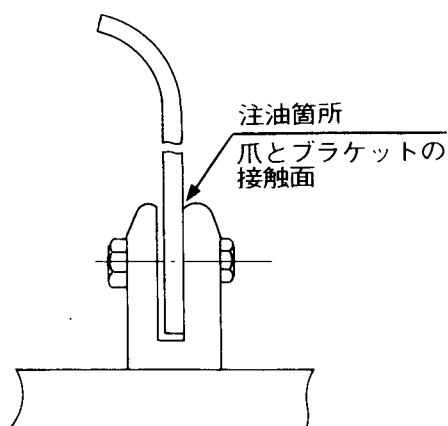
- \* 皿バネがすりへると, 耕うん中に, 爪とブラケットの接触音(カタカタ音)が, 発生する可能性があります。

この場合は, ボルトの増締めを行っても, この音は消えませんので, 速かに皿バネを新品に交換してください。

- \* 正逆転ロータリを, 長期にわたり使用しないときは, 保管前に, 爪軸関係をよく洗浄し, 土を完全に取除いた後, 爪とブラケットの接触面に, 軽油を十分に注油してください。

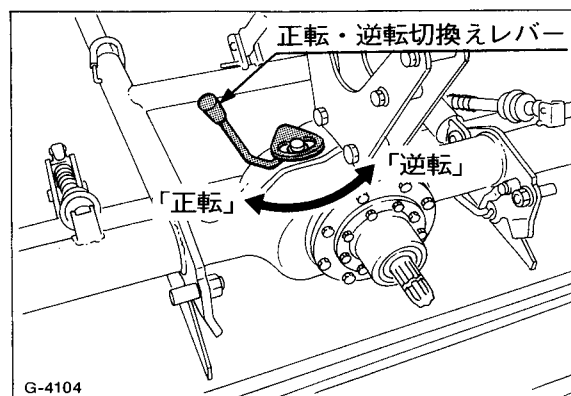
なお, 軽油以外に別売りのウスタノールを使用すれば, 防錆, 除錆, 潤滑に効果があります。

(ウスタノール・品番99022-51001)



G-1918

### 正転・逆転耕うんのしかた



#### ■運転席での正・逆転耕うんの切換え

- ① ロータリをいっぱい持上げます。
- ② PTO変速を1段に入れます。
- ③ エンジン回転を, アイドリング状態にします。
- ④ 爪軸を低速で回転させた後, クラッチを踏込んで爪軸を惰性で回転させ, 停止する前に正・逆転切換えレバーを操作して, 確実に切換えてください。

#### ■エンジンを停止しての正・逆転耕うんの切換え

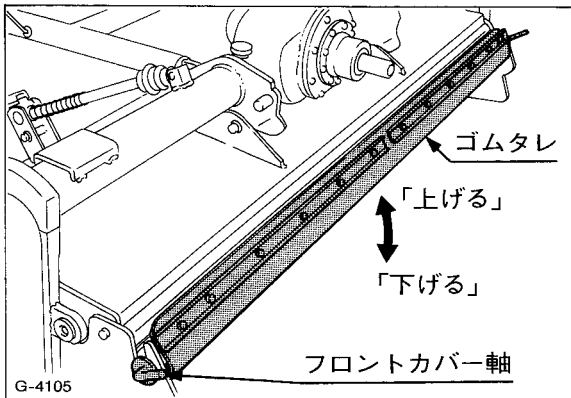
- ① ロータリを地面から浮かした状態で, 静止させた後, エンジンを停止してください。
- ② 爪軸又はジョイントを手で回し, 正・逆転切換えレバーを操作して, 確実に切換えてください。

#### ■爪の方向転換

- ① 固いほ場で耕うんして爪の向きを変えます。  
PTO 4段で回転を上げ, トラクタを前進させながら, ロータリをゆっくり下げると, 土の抵抗で爪の向きが変わります。
- ② その後, 目的に合せたPTO段数にし, 耕うんを始めてください。

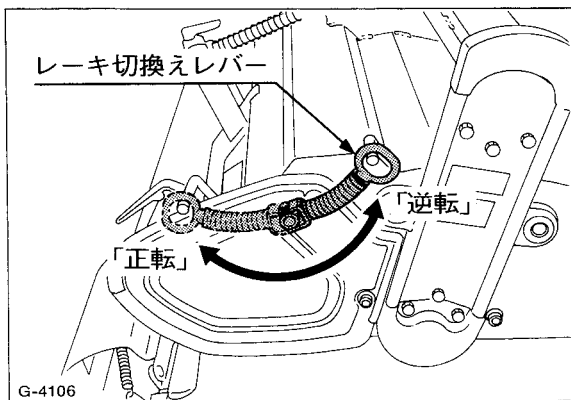
## ■前ゴムタレの上げ下げ調整

- (1)ゴムタレを操作するときは必ず、フロントスタンドを下げ位置にしてから操作してください。操作した後はフロントスタンドを上げ位置にしてください。
- (2)逆転耕うんの場合は、ロータリ前部装着のゴムタレを、下げてください。
- (3)正転耕うんの場合は、ゴムタレを上げ、フロントカバー左右の軸を、フックにかけておいてください。
- (4)逆転耕うんのとき、粘土質ほ場など消費馬力が増大する場合は、ゴムタレを上げた状態にして、使用してください。
- (5)逆転耕うんのときでも、プラウ跡や畝くずしなどで、深く耕起する場合で、ゴムタレに土が乗るようなときには、上げて使用すると、上手な作業ができます。



## ■レーキの調整

- (1)正転耕うんの場合は、レーキ切換えレバー(右, 左)を、正転方向に切換えてください。
- (2)逆転耕うんの場合は、レーキ切換えレバー(右, 左)を、逆転方向に切換えてください。
  - カバーとレーキの間に泥が付着している場合は速やかに泥を除去してください。切換えがスムーズに行なえます。



## ■正転作業時

- (1)前ゴムタレを、上げ位置に取付けてください。
- (2)代かきは正転で行なってください。
- (3)浅耕しは正転で行なってください。

## ■逆転作業時

- (1)レーキに土詰まりが発生した場合は、速かに取除いてください。十分な細土性能を得ることができません。
- (2)前ゴムタレを降ろしてください。ただし、深耕し(約15cm以上)のときは、上げ位置に取付けてください。
  - 粘土質ほ場など(消費馬力が増大する場合は)、前ゴムタレを上げた位置で使用してください。

## ■オート作業時

- (1)オート仕様トラクタの場合のロータリの着脱は、必ずロータリカバー2を最下げの位置にセットしてください。
- (2)畝くずし、凹凸のある枕地などを耕うんする場合は、後部カバーのスプリングを少しきかせて行なってください。
- (3)耕うん後の凹凸が目立ち、再耕うんするときは、車速を一段落とし、耕深を少し深めにしてください。なお、逆転耕うんの場合であれば、車速や爪回転数を変えると効果があります。
- (4)後2輪ホルダはいっぱい巻上げて使用してください。オート金具がホルダに当たり損傷する場合があります。

**重 要**

- \* 正逆切換は、必ず固いほ場で行なってください。  
代かきほ場や軟弱な所では、爪の向きが変わりません。  
爪の向きが変わっていないものがあれば、均平性が悪くなります。また、耕起振動の原因にもなりますので、爪取付けボルトをゆるめ、確実に向きを変えてください。
- \* 爪軸に草が巻付いたときは、逆方向に爪軸を回転させれば、取れやすくなります。  
このとき、レーキ位置が逆転側のままで、爪軸を正転側に回転させないでください。レーキに草が巻付き、レーキの損傷につながります。爪軸を正転側に回転するときは必ず、レーキを正転側に切換えてください。
- \* 石の多いほ場での、逆転耕うんは避けてください。  
石をかみ込み、カバーなどを損傷する恐れがあります。
- \* 正転から逆転に切換えて使用すると、耕深が2～3 cm深くなります。  
耕深を調整して適正耕深にしてください。
- \* 耕うんピッチと細土率はあまり関係ありません。  
PTO変速1～3段の間で、十分に細土作業を行なうことができます。  
むやみにピッチを小さくすると、消費馬力が増大します。
- \* 逆転耕うんは、正転耕うんに比べると消費馬力が、約1～2割多くなります。  
逆転耕うんの場合は、車速を1～2段落としてください。

# ロータリの調整

## ロータリカバーの調整

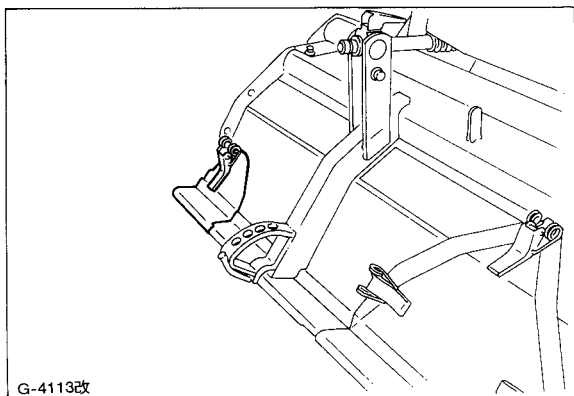
Aタイプ以外

### ■フラップカバーの使用法

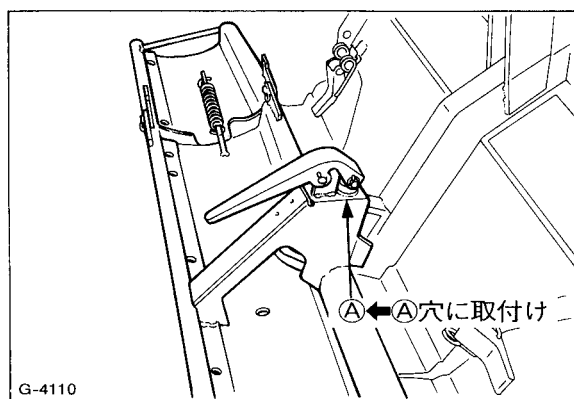
フラップカバーは、4段階の調整と着脱が可能です。作業に合わせて使い分けてください。

特にオート作業時、進行方向に凹凸ができる場合は、④穴(一番上げた位置)で使用してください。

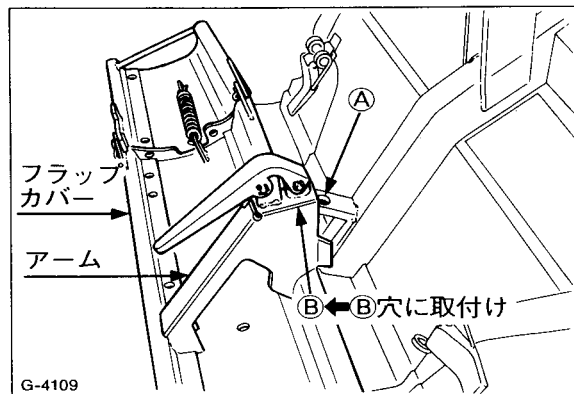
- ①. **荒耕し又は超深耕し作業**を行なう場合は、フラップカバーを取外してください。



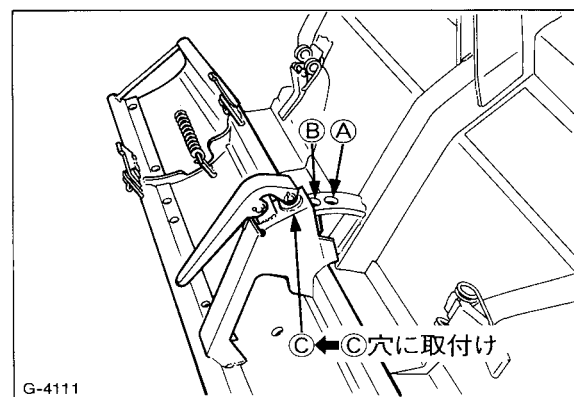
- ②. **細土耕うんや深耕し作業**は、①穴位置で行ないましょう。



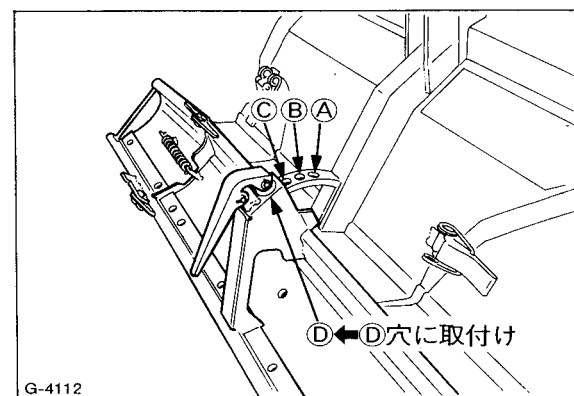
- ③. **一般耕うん作業**は、②穴位置で行ないましょう。



- ④. **浅耕し又は一般代かき作業**は③穴位置で行ないましょう。

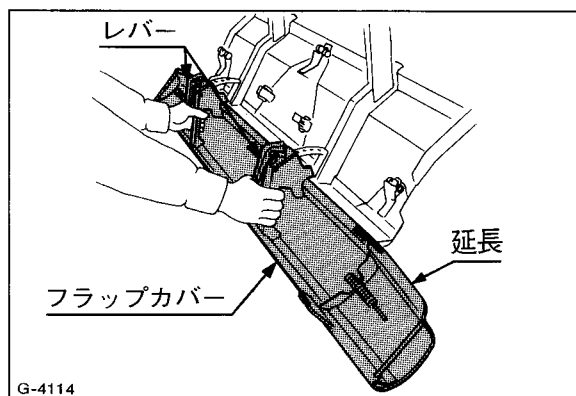


- ⑤. **半湿田での代かき作業**は一番下げた④穴位置で行なってください。



## ■フラップカバーの取外し方

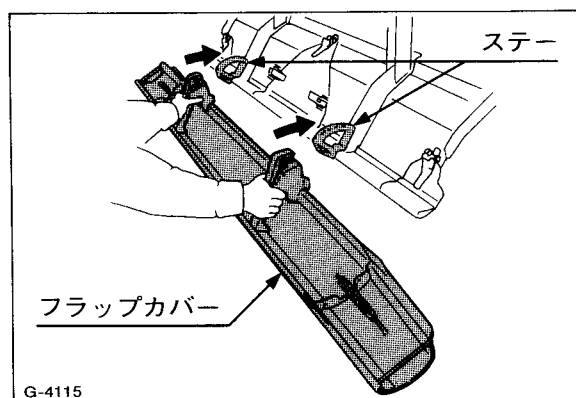
フラップカバーのアーム部とレバーを握ったまま、ロータリカバー2から取外します。



(フラップカバーの延長はEタイプにはありません。)

## ■フラップカバーの取付け方

- ① フラップカバーのアーム部とレバーを握ったまま、フラップカバー(ホンタイ)をロータリカバー2(ホンタイ)とステア2の間に差込んでください。

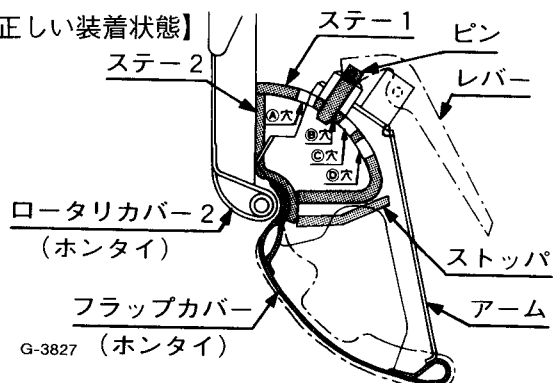


- ② 上記の状態、握ったレバーのピンが、ステア1の4つの穴(A, B, C, D)のいずれかに確実に挿入される位置でレバーをはなしてください。

### 重要

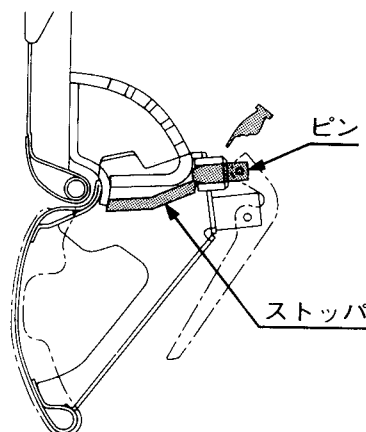
\*ピンが確実に挿入されていることを確認してください。

#### 【正しい装着状態】



#### 【誤った装着状態】

ピンがステア1の4つの穴のいずれにも挿入されずにストップの上に乗っているとフラップカバーが落下することがあります。ピンが確実に穴に挿入されるように正しく装着してください。

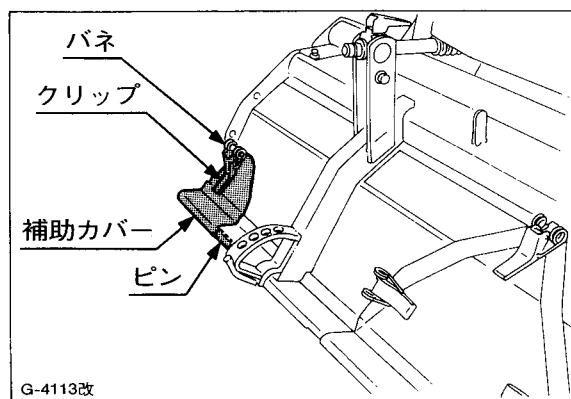


G-3828

#### Aタイプ以外

## ■補助カバーR・Lの取外し方

後2輪併用で枕地を少なくする、又は片培土作業をするため、補助カバーを取外す場合は、クリップを引上げ、補助カバーを取付けているバネをロータリカバー2のかけ金具から取外してください。

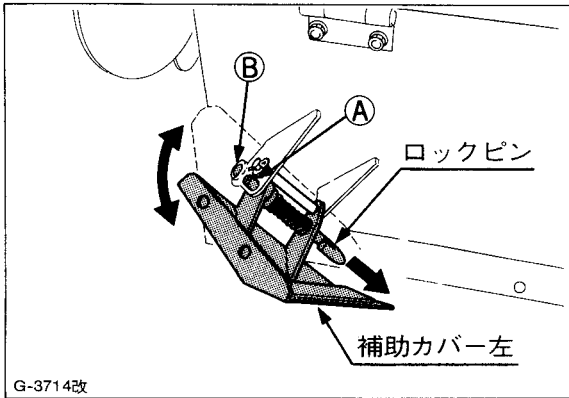


G-4113改

## Aタイプ

## ■補助カバーの開閉要領

補助カバーの折りたたみは、まずロックピンを矢印の方向に引き補助カバーを内側に回転させます。次に①穴位置にロックピンを挿入して確実にロックします。開く場合は②穴位置にロックピンを挿入します。



## Aタイプ以外

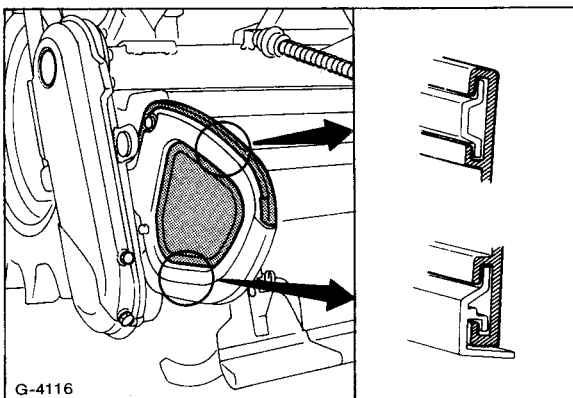
## ■サイドカバーの上手な使い方



## 注意

\*サイドカバーを外した状態でロータリを使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

- (1)作業前には、サイドゴムカバーがしっかりと装着されているか確認してください。
- (2)土地条件によってはサイドゴムカバー内面に土が付着し外側にふくることがあります。その場合は速やかに土を除去してください。
- (3)サイドゴムカバーに付着している土を取除く場合、鋭利な物(ナイフ、ドライバー等)の使用はさけてください。



## 耕深の調整(後2輪仕様)

標準(スタンド仕様)タイプを購入された方は、オプションにて追加購入することができます。

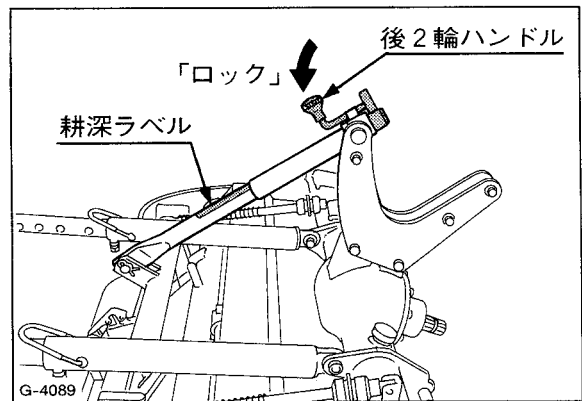
品名	品番
後2輪アッシ(RL5G)	7C705-9940-1



## 注意

\*トラクタを前進させながらの耕深調整は、しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

後2輪ハンドルを回すことにより、耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として、耕深ラベルの目盛りをご使用ください。



## 補足

\*後2輪ハンドル操作後は、図の位置にセットしてください。

## 後2輪の調整(後2輪仕様)



## 注意

\*後2輪を使用しない場合は取外してください。後2輪を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起すおそれがあります。

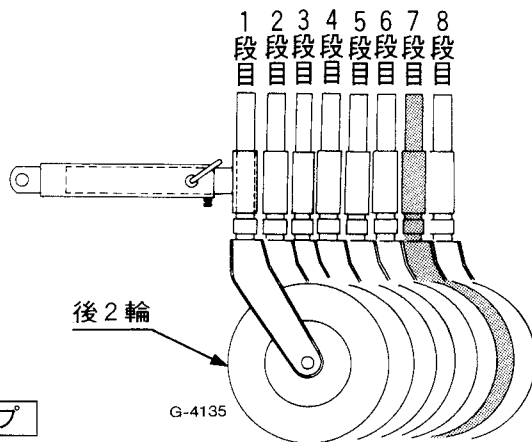
後2輪は前後方向に8段階、上下方向に標準・F・X・Eタイプは4段階、Aタイプは2段階の調節ができますので、作業に合わせて調整してください。

## ■後2輪ホルダの前後調整

Aタイプ以外

作業により次のように調整してください。

後2輪無し	培土作業	標準カバー・SCカバー機	1 段目
		V・SCVカバー機	2・3 段目
後2輪使用	一般耕うん作業 (12cm以下)	フラップカバー無し 補助カバー付	4 段目
		フラップカバー付 補助カバー付	6 段目
	フラップカバー付, 補助カバー付	7・8 段目	
	フラップカバー無し, 補助カバー無し	1 段目	
	ロータリを着脱する場合	7 段目	

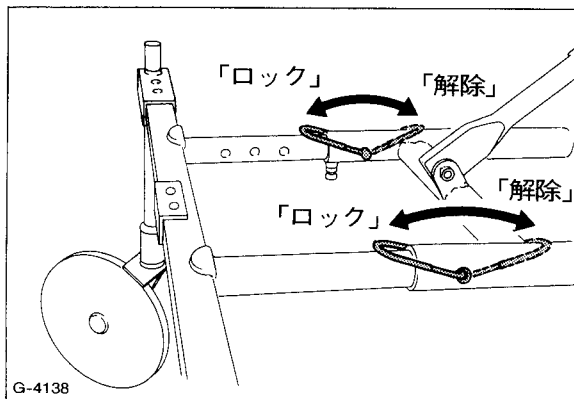


Aタイプ

畝立作業……3, 4 段目

### 補足

\*水田(湿田)で、トラクタの性能を十分発揮させるため、後2輪はロータリカバーに接触しない範囲で、接近させて使用してください。



## ■上下調整

Aタイプ以外

(1)一般耕うんの場合

後2輪支柱を①の穴に、セットしてください。

(2)代かき・湿田耕うんの場合

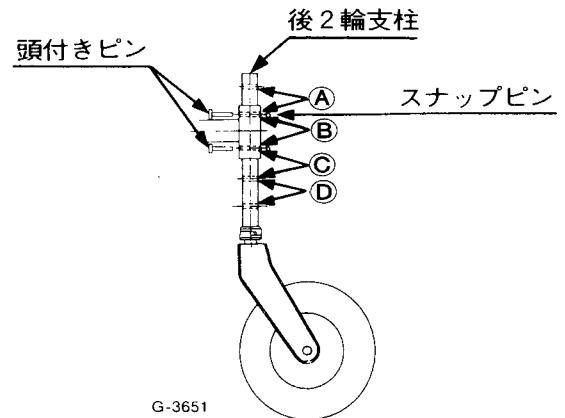
後2輪支柱を②の穴に、セットしてください。

(3)必要に応じて③④の穴に、取付けできます。

(4)頭付きピンは必ず前方から挿入してください。カバーと接触して、スナップピンが抜ける恐れがあります。

(5)ロータリを着脱する場合は⑤の穴に取付けてください。

(ロングカット爪(556号)を使用する場合は、④の位置にセットしてください。片培土機を使用するときは①の位置にセットしてください。)



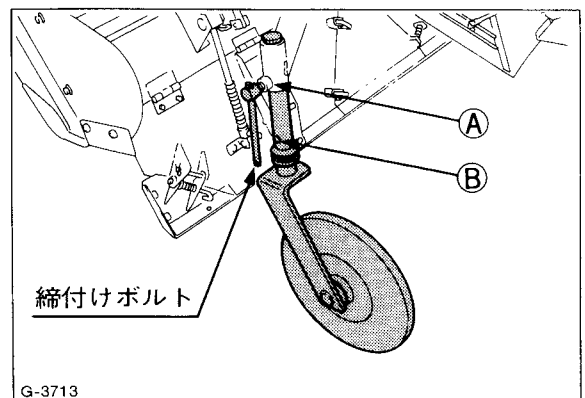
Aタイプ

(1)一般耕うんの場合

⑤の凹部に締付けボルトを締込み、回り止めしておいてください。

(2)代かき・湿田耕うんの場合

⑥の凹部に締付けボルトを締込み、回り止めしておいてください。



## スプリングロックの調整

Eタイプ以外



**注意**

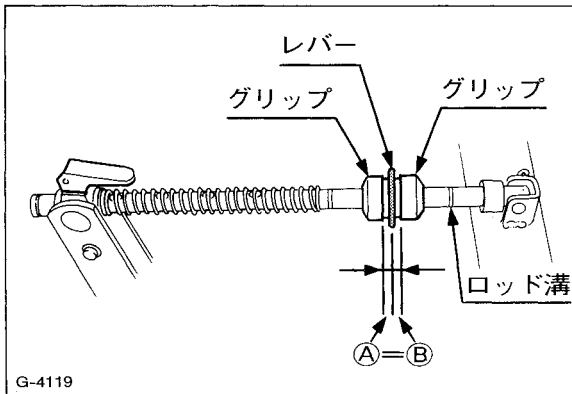
\*スプリングロックの操作は必ずロータリを地上に降ろし、エンジンを停止してから行なってください。

- (1)スプリングロックの調節は、接地圧条件に合わせて行ってください。(ロッド溝の上から1番目、2番目、3番目…と取付け位置を下方に下げるにつれて押付力は強くなります。)
- (2)押付力を強くしますと、均平、整地に効果があります。

### ■スプリングロックの操作方法

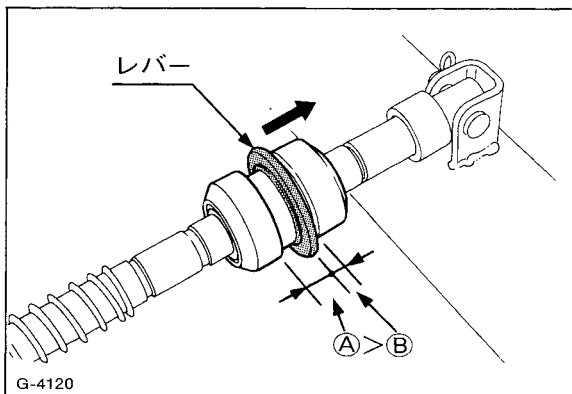
◆レバーが中立位置にある(ロッド溝にはまっている)場合

レバーを両手で操作方向に押してください。  
グリップが押した方向に動きます。

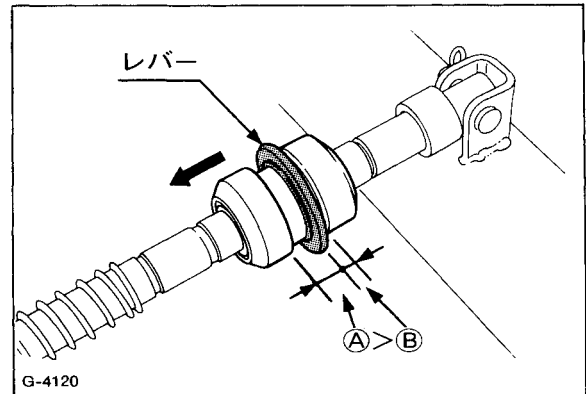


◆レバーが中立位置にない(ロッド溝にはまっていない)場合

- レバーが上側にセットされているとき  
グリップを上げる場合は、レバーを両手で上に押し上げればそのままグリップは動きます。



グリップを下げる場合は、レバーを両手で上に押し上げてから、その状態でグリップを下方向に押せば動きます。



- レバーが下側にセットされているとき  
レバーが上側にセットされているときと反対に操作してください。



**注意**

\*スプリングが押付けられた状態でスプリングロックを操作するときは、必ず最後までグリップを握った状態で操作してください。途中で手をはなすと、グリップが上方へいきおいよく飛出し危険です。

### 補足

\*ロータリを長期に使用しないとき、あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し、土を完全に取除いた後、しゅう動部に注油してください。

## オートハンガの調整



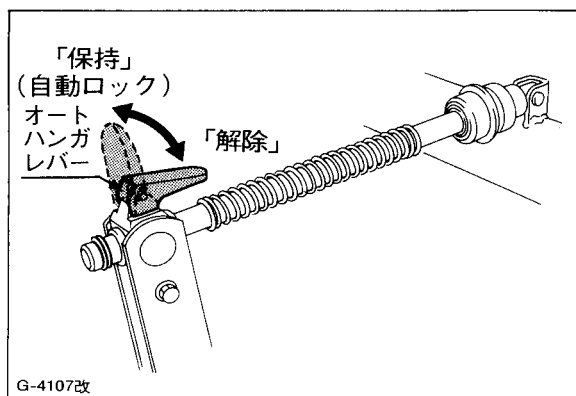
### 注意

\*オートハンガの操作は、傷害事故を引起すおそれがありますので、トラクタのキースイッチを“OFF”にしてから行ってください。

### 補足

\*MA仕様トラクタの場合、オートハンガが保持位置にセットしてあると、ロータリが下降しないことがありますので注意してください。

耕うん爪の点検・交換等を行なう場合、オートハンガレバーを左右2箇所とも“保持”(自動ロック)の位置にし、ロータリカバー2を持上げると、自動的にロータリカバー2がロックされます。



### 重要

\*オート作業時は、必ず“解除”の位置にしてください。  
耕深がとれない場合があります。

\*“保持”にしたときは必ず、左右のオートハンガのレバーが“保持”位置になっているか又、ピンが確実に入っているか確認してください。

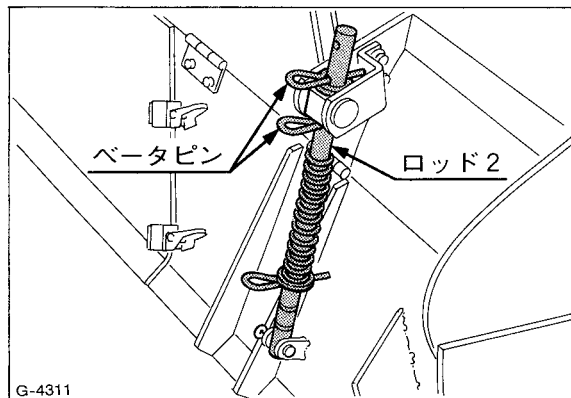
### 補足

\*ロータリを長期に使用しないとき、あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し、土を完全に取除いた後、レバー部とピン部に十分注油してください。

### Aタイプ

#### ロッド2の調節

- (1)オートでの作業は上から2番目と3番目の穴でロッドを固定してください。
- (2)畝立て等、オート以外での作業は適当なロッド溝を選ぶかフリーの状態でご使用ください。



## フローティング装置 (Aタイプ以外は別売オプション)

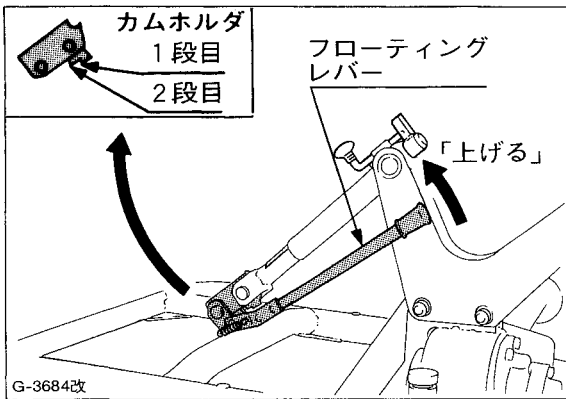


\*ロータリをトラクタから取外し、ロータリ単体保管する場合、絶対にフローティングレバーを操作しないでください。フローティングレバーを上方にあげると、急にロータリの姿勢が変化し、不安定な状態になります。

後2輪フローティング機構は、簡単な取扱いであぜぎわまで耕うんできる機構です。

次の取扱い要領に従って、正しく使用してください。

- ①フローティングレバーを上方に押し上げ、レバーがカムホルダに引掛かるようにしてください。



### 補足

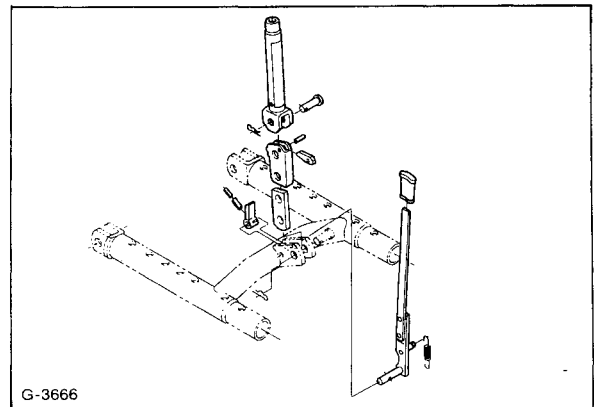
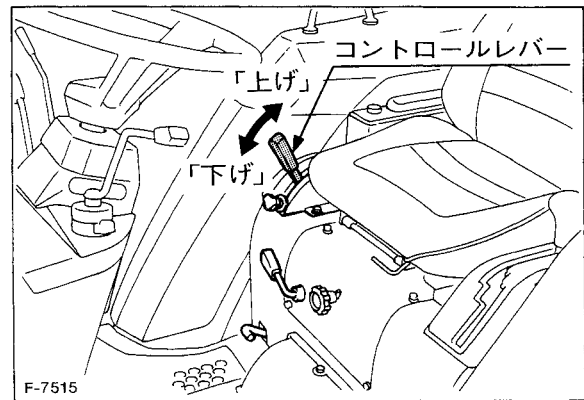
\*フローティングレバーを上げて、カムホルダに引掛けるとき、引掛かり位置によって、フローティング機構が作用しない場合がありますので、次のように使い分けてください。

浅い耕うんの場合 (耕深目盛り4以下)	1段目で 作用します
普通耕うんの場合 (耕深目盛り4以上)	2段目で 作用します

一般に、普通耕うん状態では、フローティングレバーを2段目に引掛かるまで上げないと、フローティング機構は作用しません。

- ②後2輪があぜの上に乗るように、トラクタをバックさせてください。

- ③コントロールレバーを操作して、ロータリを下げてください。
- ④このとき後2輪は、フローティング状態です。ポジションコントロールで、あらかじめ耕深を定めておき、その位置までコントロールレバーを下げて、耕うんを始めてください。
- ⑤後2輪があぜから、ほ場に降りるまで耕うんし、ほ場に降りたとき一時停止してください。
- ⑥コントロールレバーを“上げ”にすると、フローティング状態から固定状態に、自動的に切り替わります。
- ⑦次にコントロールレバーを“下げ”にすると、標準耕うん状態になり、今まで後2輪で定められていた所定の耕深になりますので、続けて耕うんしてください。

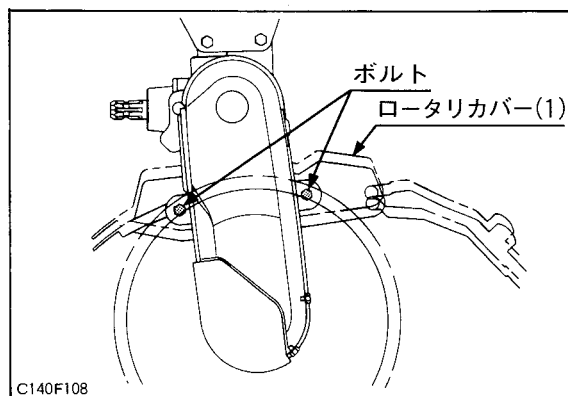


フローティング部品アッシュ  
品番(70155-9911-2)

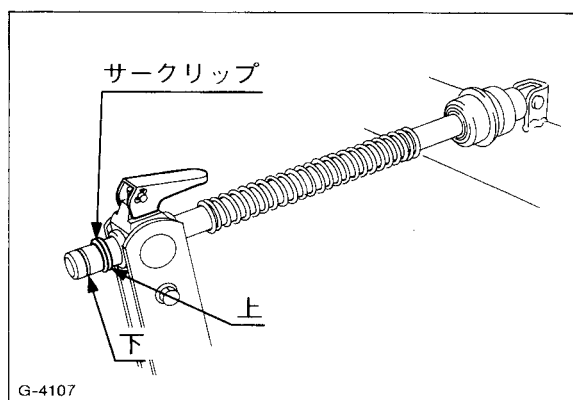
## ロングカット爪の取付け (別売オプション)

耕うん爪をロングカット爪に交換すれば、中深耕が行なえます。(爪の回転半径が約25mm大きくなります。)

- (1)ロータリカバー(1)のボデーとの取付けボルト(4本)の位置を変更し、ロータリカバーを上げてください。又、サイドカバーも同時に上げてください。(RL7Gの場合のみ、ロータリサポートとロータリカバー(1)を装着しているステーの位置も変更してください。)



- (2)ロッド下部のサークリップを上の方の溝に変更してください。



- (3)耕うん爪をロングカット爪に交換してください。

556号 ロングカット爪(1本)	R	99052-5911-1
	L	99052-5912-1
539号 ロングカット変形爪(1本)	R	99052-5913-1
	L	99052-5914-1

- 標準爪に戻す場合は、取付け順序の逆に行なってください。

### 重要

- \*ロータリカバーの取付け位置が標準時(ロータリカバーが下がっている状態)ではロングカット爪を使用しないでください。
- \*SC(V), X, BO仕様にはロングカット爪は使用できません。

## 畝立機の取付け



### 注意

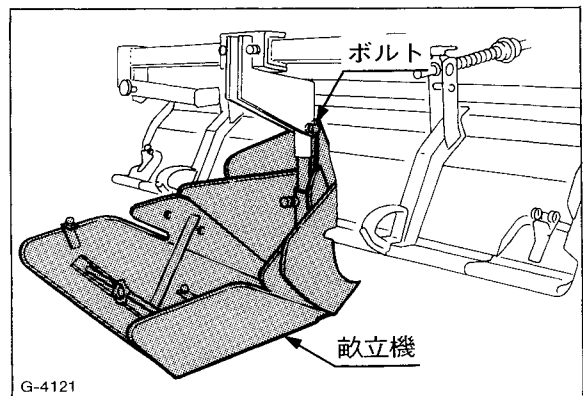
- \* 畝立機の取付けは、必ずロータリを地上に近い位置に降ろし、キースイッチを“OFF”にしてエンジンを停止してから行なってください。
- \* Q仕様トラクタには反転金具を使用しないでください。
- \* 畝立機を使用しない場合は取外してください。  
畝立機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起すおそれがあります。
- \* 畝立機を使用しない場合、Vカバーまたはカバーフタを外したままでロータリを使用しないでください。  
傷害事故を引起すおそれがあります。

畝立機は、畝立て金具の穴に下から差込み、作業に応じて取付け高さを変え、ボルトで取付けてください。折りたたんだスタンドが畝立機に当たる場合は、スタンドのロックボルトをゆるめ、縮めてご使用ください。(畝立機と畝立て金具又は畝立反転金具は別売品。)

## ■V, SCVカバーの場合

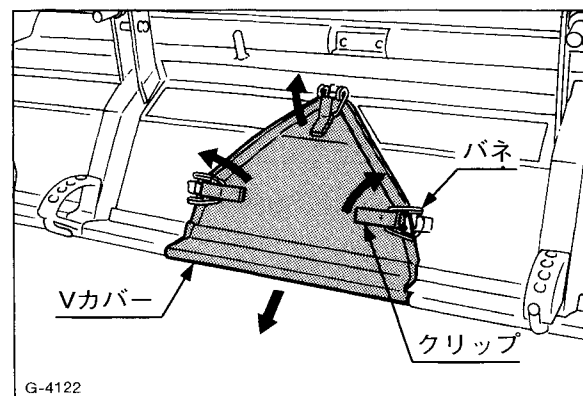
### Aタイプ以外

- ① 爪の配列を2つ盛り耕法の配列にしてください。(11ページ参照)
- ② 後2輪を取外してください。(後2輪仕様)
- ③ 後2輪ホルダを、前後調整の2段目又は3段目の位置にしてください。(21ページ参照)
- ④ フラップカバーを取外してください。(18ページ参照)
- ⑤ Vカバーを取外してください。
- ⑥ 中央部のレーキ(くし)を3本取外してください。(正逆転仕様)
- ⑦ 畝立機に畝立金具をボルトで取付けてください。
- ⑧ 畝立金具を後2輪ホルダにピンでセットしてください。
- ⑨ 後部カバー押えバネを、フリーにするか又は少し縮めて、後部カバーを軽く地面に接触させてください。



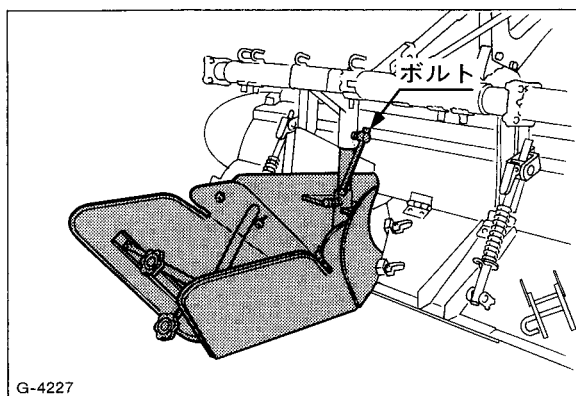
### ◆Vカバーの取外し方

- ① クリップを引上げ、Vカバーを取付けているバネを、ロータリカバー2のかけ金具から取外してください。
- ② Vカバーを下方向に動かして取外してください。
- 取付けは逆の順序で行なってください。  
クリップは確実にロックしてください。



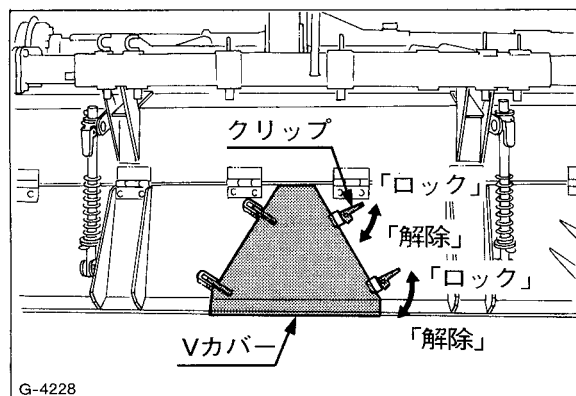
### Aタイプ

- ①爪の配列を均平又は2つ盛り耕法の配列にしてください。(11ページ参照)
- ②後2輪を取外してください。
- ③後2輪ホルダを、前後調整の3段目又は4段目の位置にしてください。(21ページ参照)
- ④Vカバーを開いてください。
- ⑤畝立機を後2輪ホルダ2の中央パイプ部に止めねじで取付けてください。
- ⑥後部カバー押えバネを、フリーにするか又は少し縮めて、後部カバーを軽く地面に接触させてください。



### ◆Vカバーの開閉要領

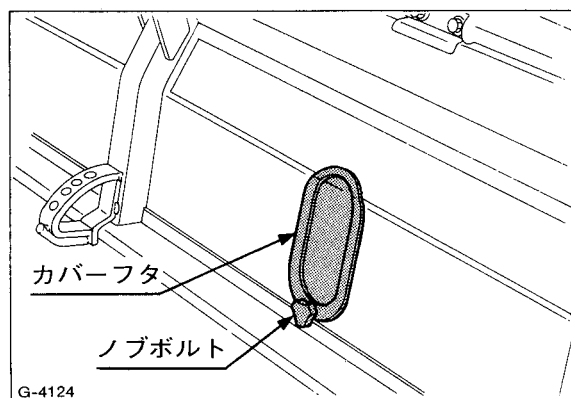
2個のクリップを解除しVカバーを開閉してください。



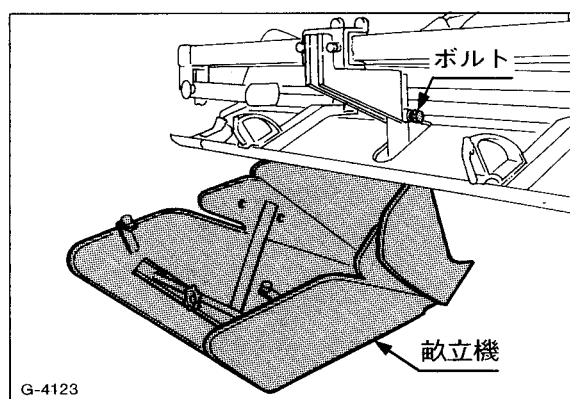
### ■標準、SCカバーの場合

#### Aタイプ以外

- ①爪の配列を2つ盛り耕法の配列にしてください。(11ページ参照)
- ②後2輪を取外してください。(後2輪仕様)
- ③後2輪ホルダを、前後調整の1段目(1番縮めた状態)にしてください。(21ページ参照)
- ④フラップカバーを取外してください。(18ページ参照)
- ⑤後部カバーのカバーフタを取外してください。



- ⑥中央部のレーキ(くし)を3本取外してください。(正逆転仕様)
- ⑦後2輪ホルダに畝立金具をピンでセットしてください。
- ⑧ロータリカバーを上げ、オートハンガで固定してください。
- ⑨後部カバーの下側から畝立機を畝立金具に取付け、ボルトで締付けてください。



## 片培土機の取付け

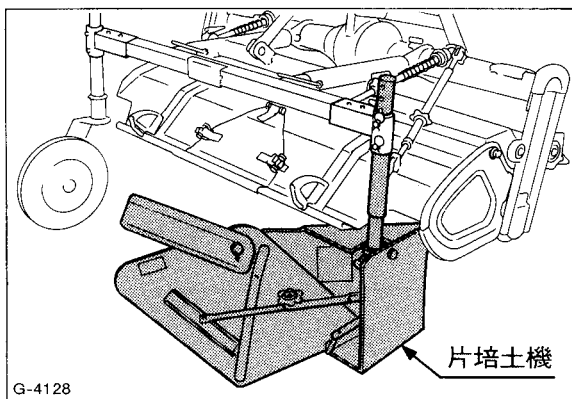
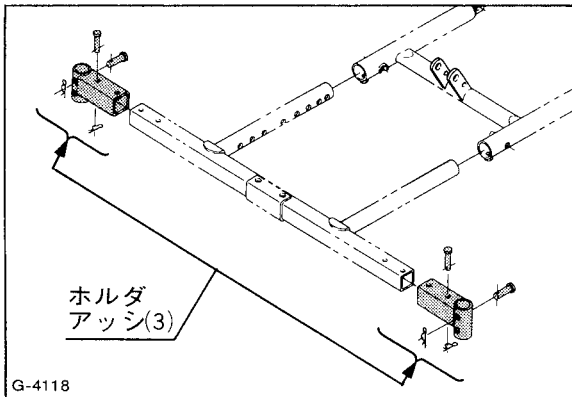


### 注意

- \*片培土機の取付けは、必ずロータリを地上に近い位置に降ろし、キースイッチを“OFF”にしてエンジンを停止してから行ってください。
- \*Q仕様トラクタには反転金具は使用しないでください。
- \*片培土機を使用しない場合は取外してください。  
片培土機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引き起こすおそれがあります。

### 取付け方

- ①後2輪の右側を取外してください。(後2輪仕様)
- ②後2輪ホルダを、前後調整の2段目又は3段目の位置にしてください。(21ページ参照)
- ③フラップカバーを取外してください。(18ページ参照)
- ④補助カバーの右側を取外してください。
- ⑤片培土機をホルダアッシ(3)にピン2本でセットしてください。  
(スタンド仕様は、ホルダアッシ(3)は別売です。)  
品名：ホルダアッシ(3)、品番：7C705-5730-2



### 補足

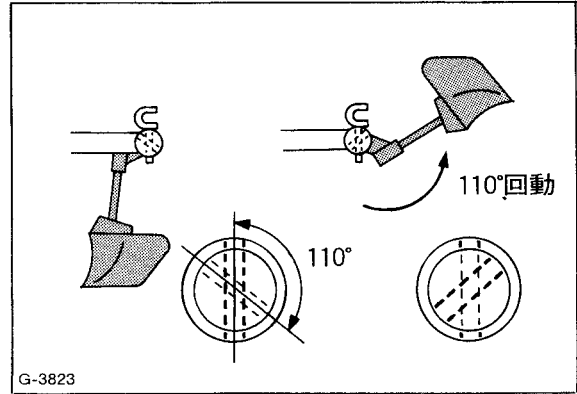
- \*ロータリカバー(2)で整地しながら片培土作業をする  
と引張り金具の長さが不足する場合がありますので  
ロータリカバー(2)を片培土機の上に乗せてくださ  
い。

## ■畝立機、片培土機の回転の取扱い

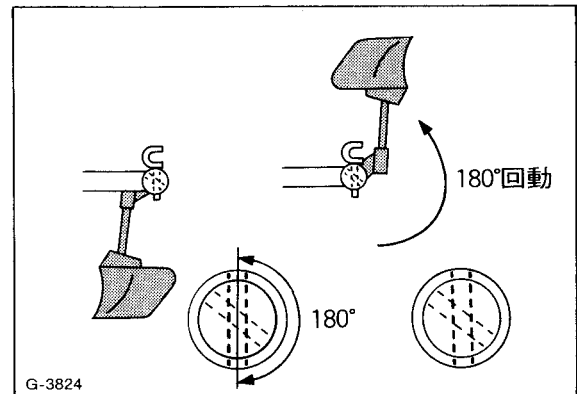
[Aタイプ]

### ◆畝立機、片培土機の未使用時のセット位置

- ①安全フレーム又は安全キャブ装着トラクタの場合  
畝立機、片培土機共作業位置から110°回転させて  
セットしてください。



- ②安全フレーム又は安全キャブが装着されていない  
トラクタの場合  
畝立機、片培土機を作業位置から180°又は110°回転  
させてセットしてください。



### 注意

- \*安全フレーム又は安全キャブ装着トラクタの場合  
畝立機、片培土機を上でセットするときは必ず110°  
回転させた位置にしてください。安全キャブと畝立  
機、片培土機に手等がはさまれるおそれがあります。

## 逆転PTOの使用方法

トラクタの逆転PTOを使用して次の作業が行なえます。

### (1) 爪軸の巻付き草を除去する。

耕うん中に草などが巻付いて、耕深が取れなくなった場合、ロータリを持上げて、逆転で数分空転させると、草の巻付きがゆるみ取りやすくなります。

### (2) 軟弱地での土寄せ作業。

代かき作業などを行なう軟弱なほ場に、泥などが盛上がった場合、逆転PTOを使用して土寄せを行なうと、効果があります。このとき、エンジン回転数1500rpm位で作業すると泥飛びも少なくなります。但し、バックする場合、カバーと泥や土が接触しない位置までロータリ又はカバーを上げてください。

### 重要

逆転PTOを使用して、次の作業は行なわないでください。ロータリ破損の原因になります。

\* 逆転耕うん作業

\* 一般ほ場での土寄せ作業

\* 正逆転ロータリの正転、逆転作業

## 爪軸交換のしかた



### 注意

傷害事故の防止のため、爪軸交換をする場合、次の事を守ってください。

\* トラクタを平たんな広い場所に置く。

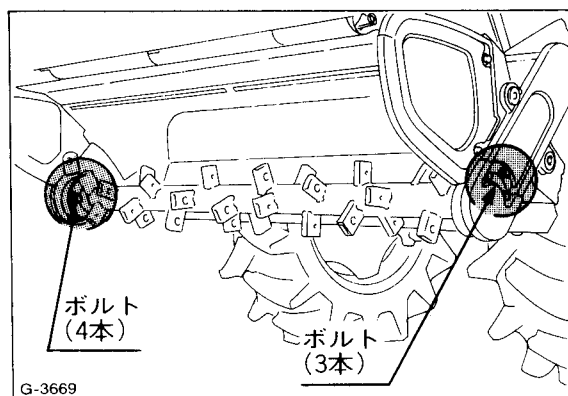
\* エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。

\* ロータリを持上げ、落下調整グリップを右いっぱいにして締込む。

(1) チェーンケース側爪軸取付けボルト(4本)、及びサイドフレーム側ベアリングケース取付けボルト(3本)をゆるめてください。

(2) 落下調整グリップを少し左に回し、耕うん爪が水平地面上に付くまでゆっくりと降ろした後で、ボルトを外して、爪軸を交換してください。

(3) このとき、別売りの爪軸交換スタンドアッシ(品番98606-48430)を使用すると、より簡単です。



### 重要

\* 取付けは、外したボルトが作業中にゆるまないように、確実に締付けてください。

### 補足

\* 爪軸は、爪軸取付けフランジの“L”の刻印が、チェーンケース側にくるように取付けてください。

## 普通爪の使用

### 重要

\*正逆転ロータリ・マッドレスロータリ・爪ワンタッチロータリには使用できません。

標準としては、なた爪を使用しますが、雑草やゴミなどの少ない乾田耕起用として、普通爪を使うと、耕起動力が少なくすみ、その上細土がより細かくなります。

ロータリ形式	RL4G	RL5G RL6G(E)	RL7G(E)	RL4FG	RL5FG RL6FG	RL4AG
普通爪 セット品番	—	99762- 4940-6	99712- 4940-6	—	—	—
518号 99542-4941-1	30本	34本	36本	38本	40本	46本
514号増幅R,L (R)99542-4944-1 (L)99542-4943-1	各1本					

※セット品番には、爪取付け部品(ボルト, ナット)は含みません。

# 作業前の点検について(日常点検)



## 警告

\*安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又、紛失したり、損傷した場合、交換してください。

巻込まれや、切傷事故の原因になります。

## 点検箇所

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

日常点検は毎日欠かさず行なってください。

※印は、別途作業要領が説明してあります。

## ■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日、前使用時の異常箇所。

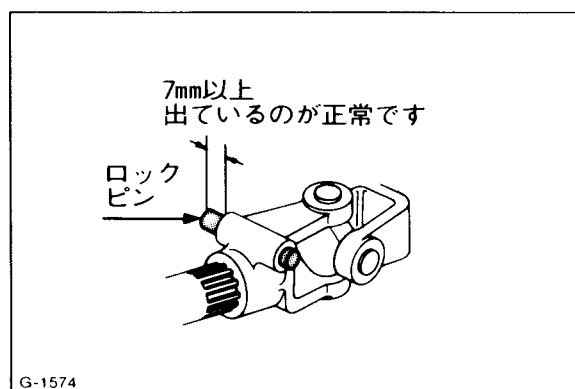
(2)ロータリの点検ポイント。

- \*爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
- \*爪取付け用イタバネの装着状態(BO仕様)
- \*ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
- \*ユニバーサルジョイントのロックピンの確認……………※①
- \*油もれ

## 点検のしかた

### ①ユニバーサルジョイントのロックピンの確認

ロックピンが正確に溝にはまったかどうかの確認は、ピンの頭が7mm以上出ているかどうかを調べてください。



# ロータリの簡単な手入れと処置

## 定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って、必ず定期点検を実施してください。



### 注意

傷害事故の防止のため、点検整備をする場合、次の事を守ってください。

- \*トラクタを平たんな広い場所に置く。
- \*エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。
- \*ロータリの落下防止のため、落下調整グリップを右いっぱい回して締込む。
- \*爪軸の下に木の台などをし、より安全性を確保する。

No.	点 検 項 目	アワーメータの表示時間						参照ページ
		50	100	150	200	250	300	
1	ギヤケース	油量点検		○	○	○	○	33
		オイル交換	◎				○	
2	チェーンケース	油量点検		○	○	○	○	33
		オイル交換	◎				○	
3	グリースの補給							34, 35
	<ul style="list-style-type: none"> <li>•ユニバーサルジョイント</li> <li>•アジャスタ(後2輪調整ネジ部)</li> <li>•ホルダ(ジョイント), ロータリ入力軸 (スーパージョイント付)</li> <li>•後2輪のグリースニップル部</li> </ul>	○	○	○	○	○	○	
4	注油							34
	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Aフレーム各回動部</li> <li>•スプリングロックしゅう動部</li> <li>•オートハンガしゅう動, 回動部</li> </ul>							
4	グリースの交換			○			○	34
	<ul style="list-style-type: none"> <li>•爪軸ベアリングケース</li> </ul>							

【注】◎印は、ならし運転時の50時間使用後に、必ず行なってください。

## 各部の油量点検と交換

使用するギヤオイルは、必ず“クボタ純オイル”を使用してください。(42ページ参照)

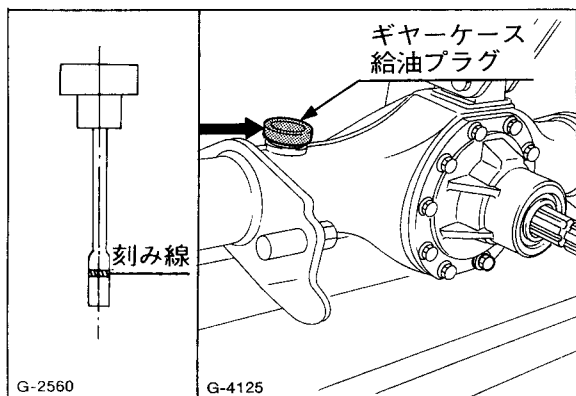
### 補足

\*点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま、水平な地面に置いて行ってください。  
傾いていると正確な量を示さないことがあります。

### ■ギヤケース

#### ◆油量点検のしかた

- ①ロータリを降ろして、給油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふいて、差込んでから再び抜き、“刻み線”までオイルがあるかを調べてください。
- ②刻み線以下の場合は補給してください。

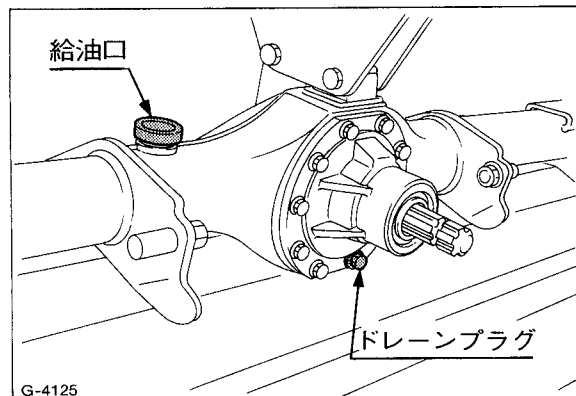


G-2560

G-4125

#### ◆交換のしかた (正転ロータリ: 2.2ℓ 正逆転ロータリ: 2.5ℓ)

- ①ドレーンプラグを外してオイルを出してください。オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は速やかに交換してください。
- ②ギヤオイルを給油口から、規定量入れてください。

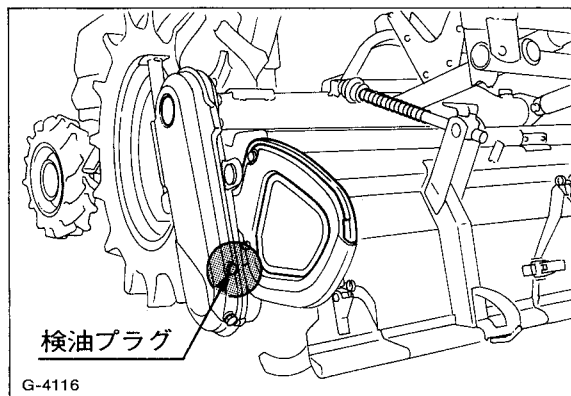


G-4125

### ■チェーンケース

#### ◆油量点検のしかた

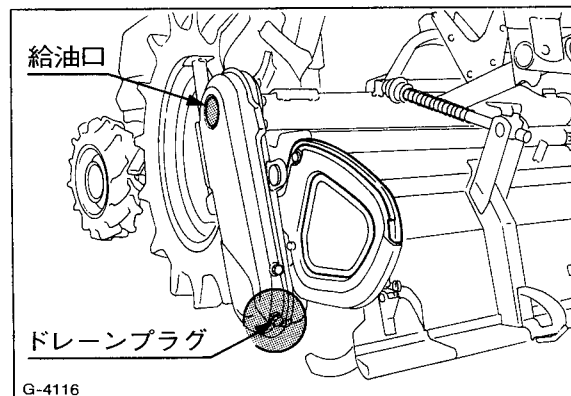
- ①ロータリを降ろして、検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べてください。
- ②検油口以下の場合は補給しますが、検油口以上には入れないでください。



G-4116

#### ◆交換のしかた(1.2ℓ)

- ①ドレーンプラグを外してオイルを出してください。オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は速やかに交換してください。
- ②ギヤオイルを給油口から、規定量入れてください。



G-4116

## グリースの補給

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行ってください。但し、代かき作業などで泥水に入ったときは、作業終了後必ずグリースアップをしておきましょう。

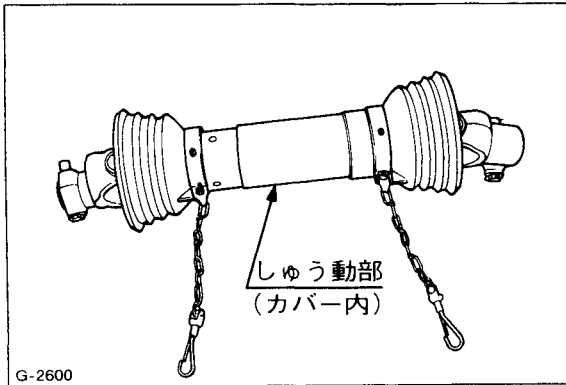
グリースは、“クボタ推奨グリース”を使用してください。(42ページ参照)

### ■ユニバーサルジョイント

しゅう動部は、ジョイントのオス・メス部を切離して補給してください。

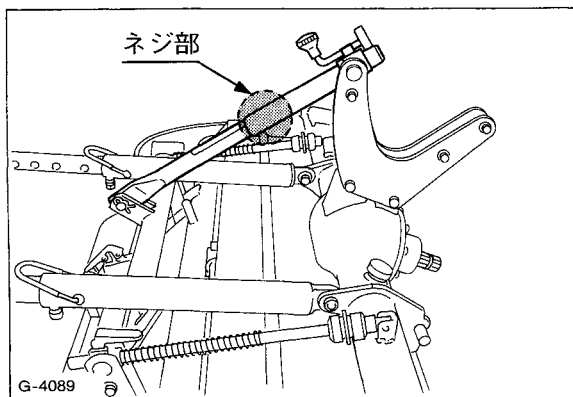
#### 補 足

\*PTO軸・ロータリ側の軸にも、薄く塗布してください。



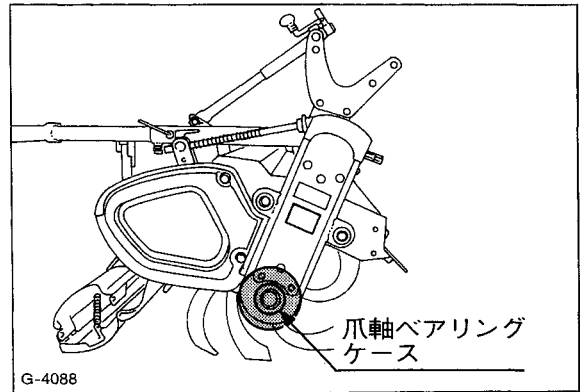
### ■アジャスタ(後2輪調整ネジ部)

シャーシグリースを適量補給してください。(アジャスタと調整ネジを切離して、ネジ部にグリースを塗布します。)



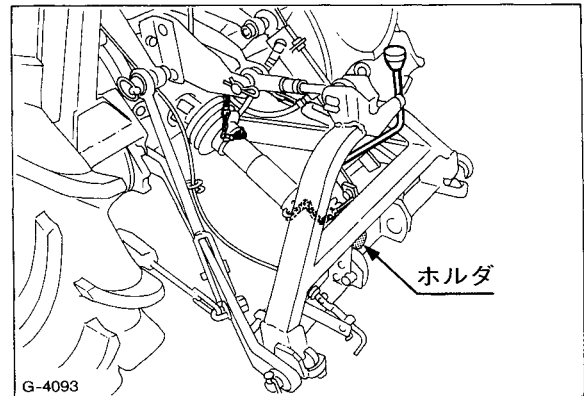
### ■爪軸ベアリングケース

サイドフレームのキャップを外し、ベアリンググリースを交換します。

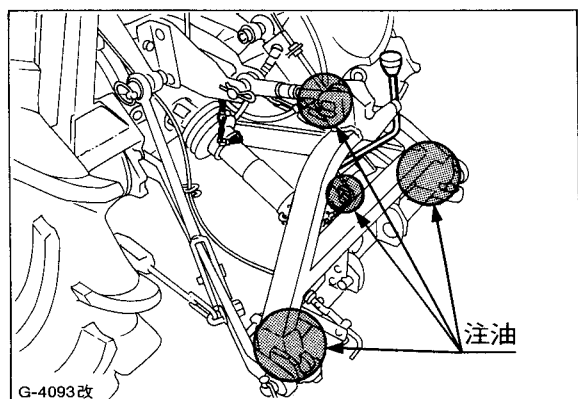


### ■ホルダ(ジョイント), ロータリ入力軸 (スーパージョイント付)

- ① 湿田耕うんや代かき作業後は、必ずロータリを切離し、ホルダ(ジョイント)内とロータリ入力軸の、泥をきれいに水で洗い流し、下図の箇所にグリースを適量塗布してください。
- ② 定期的にロータリを切離し、ホルダ(ジョイント)とロータリ入力軸の、下図の箇所にグリースを適量塗布してください。

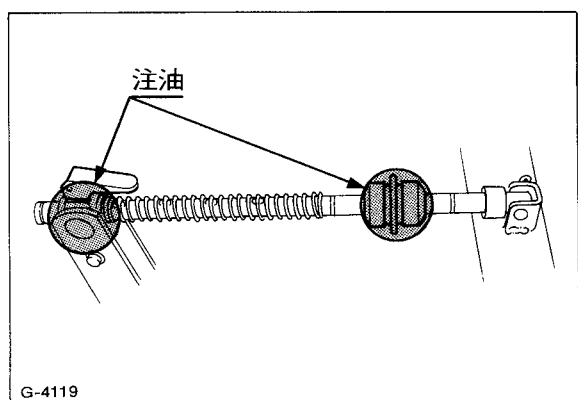


## ■Aフレーム各回動部

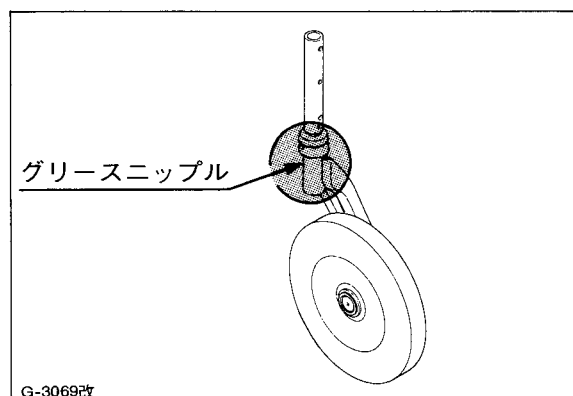


## ■スプリングロックしゅう動部

## ■オートハンガしゅう動，回動部



## ■後2輪のグリースニップル部(後2輪仕様)



## シールの組換え

整備などの目的でギヤケース、チェーンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴムキャップ、ゴム付座金、液状ガスケット等と交換してください。オイルもれの原因となります。

液状ガスケットはスリーボンド1208相当品を使用してください。

# 付 表

## 主要諸元

### ■標準ロータリ

型 式	RL4G	RL4FG	RL4AG	RL5G	RL5FG	RL6G	RL6G-E	RL6FG	RL7G	RL7G-E
駆 動 方 式	サイドドライブ式									
機 体 寸 法	全 長(mm)	1180(1440：後2輪仕様)								
	全 幅(mm)	1560	1575	1660	1760			1870		
	全 高(mm)	1025								
重 量(kg)	234 (249)	242 (257)	295	250 (265)	258 (273)	262 (277)	257 (272)	270 (285)	274 (289)	269 (284)
適 応 ト ラ ク タ kW(PS)	GL200~GL220 15~16(20~22)	GL200~ GL320 15~24 (20~32)	GL200~GL260 15~19(20~26)	GL240~GL320 18~24(24~32)			GL280~ GL320 21~24(28~32)			
装 着 装 置 の 種 類	特殊3点リンク									
標 準 耕 幅(cm)	141			151		161			172	
標 準 耕 深(cm)	~18									
標 準 作 業 速 度(km/h)	0.5~4.0	0.5~4.5	0.5~4.0	0.5~4.5						
入 力 軸 回 転 数(rpm)	556~1400									
変 速 の 有 無	無									
耕 う ん 軸 回 転 数 (rpm)	GL200	正転：169, 238, 292, 387 逆転：238 (RL4AG 正転：198, 280, 343, 454)								
	GL220									
	GL240									
	GL260									
	GL280									
	GL300									
GL320	正転：181, 256, 314, 415 逆転：256 (RL4AG 正転：212, 300, 368, 487)									
耕 う ん 爪 取 付 方 法	ホルダタイプ									
耕 う ん 爪 の 種 類 と 本 数	58A号なた爪 R・L各15本	58A号なた爪 R・L各19本	58A号なた爪 R・L各23本	58A号なた爪 R・L各17本	58A号なた爪 R・L各20本	58A号なた爪 R・L各17本	581号なた爪 R・L各17本	58A号なた爪 R・L各20本	58A号なた爪 R・L各18本	581号なた爪 R・L各18本
	58C号増幅爪 R・L各1本						583号増幅爪 R・L各1本	58C号増幅爪 R・L各1本	583号増幅爪 R・L各1本	
耕 う ん 爪 の 外 径(cm)	50									
耕 深 調 節 機 構	後方双尾輪式, モンローマチックオート式(モンローマチックオート付の場合)									
耕 う ん 作 業 能 率(分/10a)	14~113			11~105		11~93			10~87	

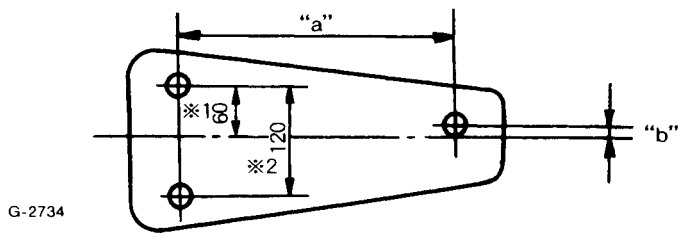
## ■正逆転ロータリ

型式	RL4XG	RL5XG	RL5XFG	RL6XG	RL6XFG	RL7XG
駆動方式	サイドドライブ式					
機体寸法	全長(mm)	1180(1440：後2輪仕様)				
	全幅(mm)	1560	1660		1760	1870
	全高(mm)	1030				
重量(kg) (後2輪仕様)	288(303)	299(314)	309(324)	310(325)	320(335)	322(337)
適応トラクタ kW(PS)	GL200~GL220 15~16(20~22)	GL240~GL260 18~19(24~26)		GL280~GL320 21~24(28~32)		
装着装置の種類	特殊3点リンク					
標準耕幅(cm)	141	151		161		172
標準耕深(cm)	~18					
標準作業速度(km/h)	0.5~4.5					
入力軸回転数(rpm)	556~1400					
変速の有無	無					
耕うん軸回転数 (rpm)	GL200	正転：189, 267, 328, 434      逆転：267				
	GL220					
	GL240	正転：197, 278, 341, 451      逆転：278				
	GL260					
	GL280	正転：188, 267, 327, 433      逆転：267				
	GL300	正転：196, 277, 339, 449      逆転：277				
	GL320	正転：203, 287, 352, 466      逆転：287				
耕うん爪取付方法	ホルダタイプ					
耕うん爪の種類と本数	593号正逆爪R・L各12本	596号正逆爪R・L各17本	593号正逆爪R・L各14本	596号正逆爪R・L各18本	593号正逆爪R・L各14本	
	594号正逆爪R・L各1本	595号正逆爪R・L各1本	594号正逆爪R・L各1本	595号正逆爪R・L各1本	594号正逆爪R・L各1本	
耕うん爪の外径(cm)	49					
耕深調節機構	後方双尾輪式, モンローマチックオート式(モンローマチックオート付の場合)					
耕うん作業能率(分/10a)	17~141	14~132		13~116		

## 標準付属品

取扱説明書	1
保証書	1

## 使用補助ユニット一覧表



※1. U325(Q)-5RFの場合 45

※2. U325(Q)-5RFの場合 90

トラクタ	補助ユニット	トップリンクサポート品番	“a”寸法 (mm)	“b”寸法 (mm)
GL200, GL220, GL240 GL19, GL21, GL23	U205Q-6RF U195Q-6RF U195-6RF	70888-5141-2	220	-20
GL240J, GL260, GL268, GL280 GL23DJ, GL25, GL26, GL27	U265Q-6RF U255Q-6RF U255-6RF	70888-5341-2	245	-20
GL280J, GL280Q, GL300 GL320, GL338, GL27DJ, GL29 GL32, GL33	U305Q-6RF U295Q-6RF U295-6RF	70888-5541-2	320	-25
GL260K, GL25K	U26KQ-6RF U255KQ-6RF U255K-6RF	70888-5741-1	250	20
L <sub>1</sub> -195, L <sub>1</sub> -215 L <sub>1</sub> -215DH L <sub>1</sub> -235, L <sub>1</sub> -255	U195Q-5RF U195-5RF	70862-5885-2	259.5	0
L <sub>1</sub> -235DJ	U235J-5RF U235JQ-5RF			
L <sub>1</sub> -275	U275Q-5RF U275-5RF	70864-5885-2	300	0
L <sub>1</sub> -275DJ, L <sub>1</sub> -295 L <sub>1</sub> -315, L <sub>1</sub> -325	U295Q-5RF U295-5RF	70866-5885-2	290	-25
L <sub>1</sub> -325MA	U325Q-5RF U325-5RF	70868-5885-1	262	-48
L <sub>1</sub> -235Dハウス	U235H-5R	70882-5821-1	206	0
GL280K, L <sub>1</sub> -235DK, L <sub>1</sub> -275DK	U235K-5RF	70883-5841-1	245	130
L <sub>1</sub> -185, L <sub>1</sub> -205	U18-4RF	70834-5841-2	259.5	0
L <sub>1</sub> -225, L <sub>1</sub> -245	U22-4RF	70834-5841-2		
L <sub>1</sub> -225Dハウス	U22H-3R	70825-5821-3	206	0
L <sub>1</sub> -225DK	U22K-4RF	70859-5841-1	238	115.5
L <sub>1</sub> -265	U26-4RF	70835-5841-2	300	0
L <sub>1</sub> -285	U28-4RF	70858-5841-1	290	-25
L <sub>1</sub> -18, L <sub>1</sub> -20	U18-3RF	70827-5841-3	246	0
L <sub>1</sub> -22, L <sub>1</sub> -24	U22-3RF	70837-5841-2	240	-15
L <sub>1</sub> -26	U26-3RF	70838-5841-2	282	-15
L <sub>1</sub> -28	U28-3RF	70846-5841-2	275	-25
L1802M, L2002M	U1802M-2RF	70822-5841-2	225	30
L1802, L2002	U1802-2RF	70802-5841-2		
L2202M	U2202M-2RF	70823-5841-2	277	20
L2202	U2202-2RF	70803-5841-2		
L2402M	U2402M-2RF	70824-5841-2	259.5	0
L2402	U2402-2RF	70804-5841-1		
L2602M, L2602	U2602M-2RF	70814-5841-4	300	0



## ■正逆転ロータリ専用品

分類	品番	品名	用途・仕様	併用 アタッチメント	適 応 形 式											
					RL4XG		RL5XG		RL5XFG	RL6XG		RL6XFG		RL7XG		
					標準	V	標準	V	V	標準	V	V	標準	V		
耕	99012 -4960-6	14X正逆爪 セット	593号R・L各12本 594号R・L各1本	• 爪取付け部品 アッシ	○	○	○	○								
	99072 -4960-6	16X正逆爪 セット	593号R・L各14本 594号R・L各1本							○	○			○	○	
う	70264 -5758-2	爪取付け部品 アッシ14X	• 爪を除く取付け 部品の一式	—	○	○	○	○								
	70266 -5758-2	爪取付け部品 アッシ16X		—						○	○			○	○	
ん	99042 -4970-6	正逆爪セット	596・S R・L各17本 595号R・L各1本						○							
	99062 -4970-1	正逆爪セット	596・S R・L各18本 595号R・L各1本										○			
	70314 -5556-1	正逆爪 調整部品 1	カラー1, カラー2 サラバネ	—					○				○			
	70314 -5555-1	爪取付け 部品 1	ボルト・ナット バネ座金各1個	—					○				○			

○印下の数字は1台分のセット個数です。



## 推奨オイル・グリース一覧表

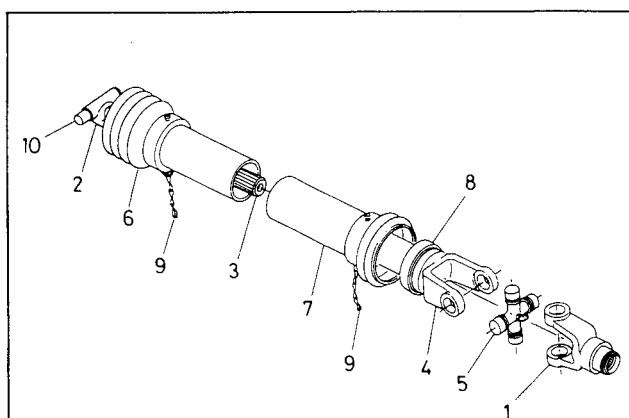
### ■ギヤーオイル90番

メーカ	ギヤーオイル
日本石油	クボタ純オイル(ミッション用)M90
コスモ石油	クボタ純オイル(ミッション用)M90
ジャパンエナジー	クボタ純オイル(ミッション用)M90
昭和シェル石油	クボタ純オイル(ミッション用)M90
富士興産	クボタ純オイル(ミッション用)M90

### ■グリース

メーカ	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAP-No.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホイールベアリングHDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

## 主な消耗部品一覧表



G-3704

U205Q-6RF (GL200, 220, 240)

図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	7C700-5221-2	1
1	ヨーク(2)	7C700-5223-1	1
2	ヨーク	70857-5813-1	1
3	シャフトヨーク	70862-5812-2	1
4	ヨークスリーブ	70857-5814-3	1
5	スパイダアッシ	70531-5225-1	2
6	セーフティカバー(SS)	70862-5813-1	1
7	カバー(セーフティ,LSS)	70888-5229-1	1
8	スライドリング	70857-5828-1	2
9	チェーンアッシ	70815-5822-1	2
10	ロックピンアッシ	70678-5822-1	1

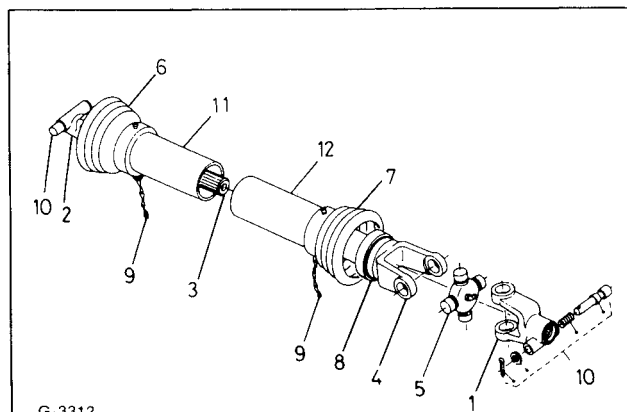
U265Q-6RF (GL240J, 260, 268, 280)

U305Q-6RF (GL280J, 280Q, 300, 320, 338)

図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	7C700-5421-2	1
1	ヨーク(2)	7C700-5223-1	1
2	ヨーク	70837-5825-1	1
3	シャフトヨーク	70871-4312-1	1
4	スリーブヨーク	70857-5822-2	1
5	スパイダアッシ	70531-5225-1	2
6	セーフティカバーSS	70871-4313-1	1
7	カバー(セーフティ,LSS)	70888-5429-1	1
8	スライドリング	70857-5828-1	2
9	チェーンアッシ	70815-5822-1	2
10	ロックピンアッシ	70678-5822-1	1

U26KQ-6RF (GL260K)

図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	7C700-5821-1	1
1	ヨーク(2)	7C700-5223-1	1
2	ヨーク	70857-5813-1	1
3	シャフトヨーク	70888-5822-1	1
4	ヨークスリーブ	70888-5814-1	1
5	スパイダアッシ	70531-5225-1	2
6	プロテクティブカバーS	70888-5823-1	1
7	カバー(セーフティ,LSS)	70888-5829-1	1
8	スライドリング	70857-5828-1	2
9	チェーンアッシ	70815-5822-1	2
10	ロックピンアッシ	70678-5822-1	1



G-3312

U195-6RF (GL200, 220, 240)

図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	70886-5811-2	1
1	ヨーク	70857-5813-1	1
2	ヨーク	70857-5812-1	1
3	シャフトヨーク	70886-5821-2	1
4	ヨークスリーブ	70857-5814-2	1
5	スパイダアッシ	70531-5225-1	2
6,11	プロテクティブカバーS	70886-5823-1	1
7,12	プロテクティブカバーL	70886-5824-1	1
8	スライドリング	70857-5828-1	2
9	チェーンアッシ	70815-5822-1	2
10	ロックピンアッシ	70678-5822-1	2

U255-6RF (GL240J, 260, 268, 280)

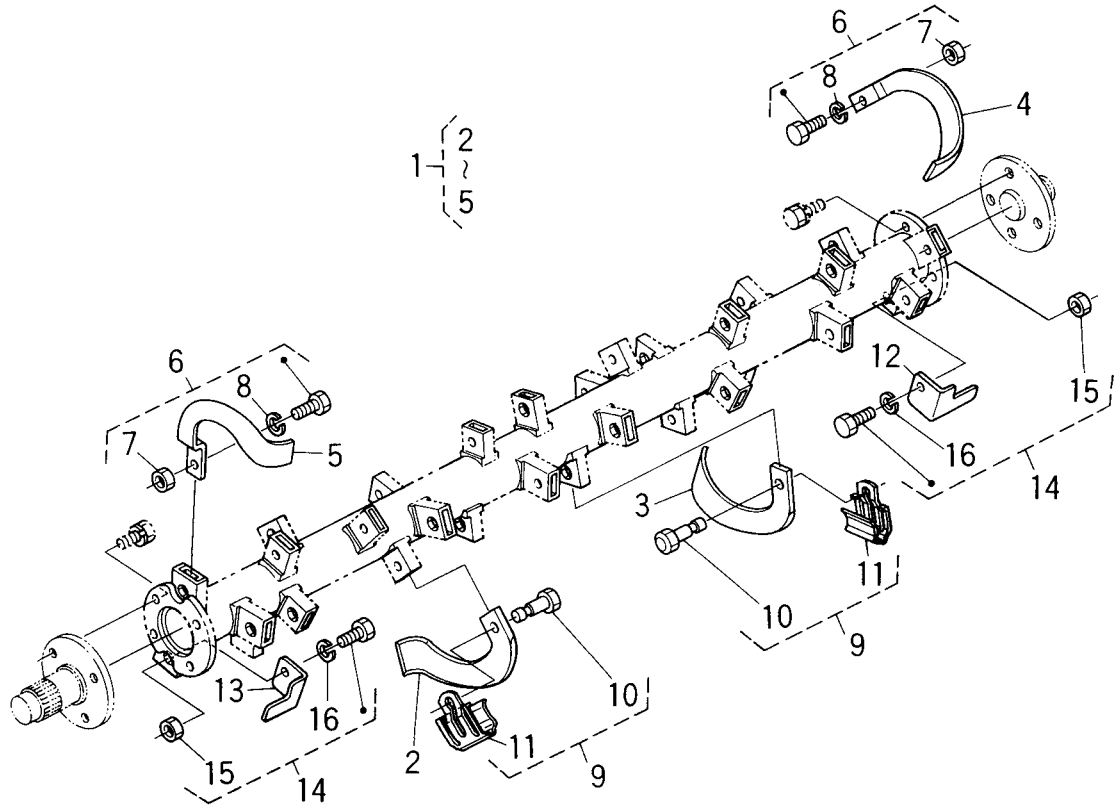
U295-6RF (GL280J, 280Q, 300, 320, 338)

図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	70867-5811-2	1
1	ヨーク	70857-5813-1	1
2	ヨーク	70857-5812-1	1
3	ヨークシャフト	70867-5812-2	1
4	ヨークスリーブ	70857-5814-2	1
5	スパイダアッシ	70531-5225-1	2
6,11	プロテクティブカバーS	70857-5823-1	1
7,12	プロテクティブカバーL	70857-5824-1	1
8	スライドリング	70857-5828-1	2
9	チェーンアッシ	70815-5822-1	2
10	ロックピンアッシ	70678-5822-1	2

U255K-6RF (GL25K)

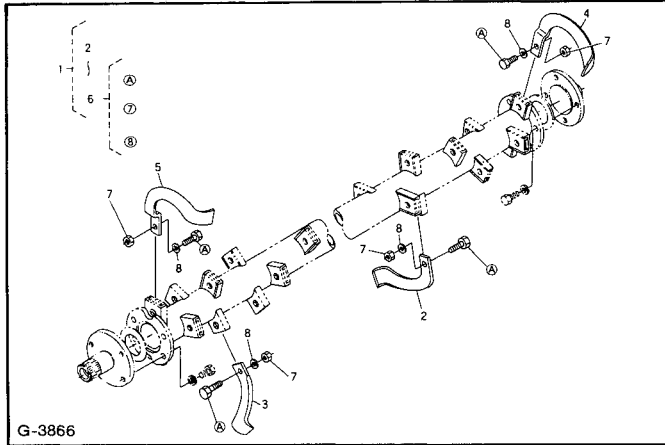
図番	品名	品番	個数
◎	ユニバーサルジョイントアッシ	70853-5811-1	1
1	ヨーク2	70836-5827-1	1
2	ヨーク1	70836-5826-1	1
3	ジョイント1	70853-5824-1	1
4	ジョイント2	70853-5825-1	1
5	スパイダアッシ	70411-5210-1	2
6,7	ブーツ	70416-5812-1	2
8	ベアリング	70416-5815-1	2
9	クサリアッシ	70416-5816-3	2
10	ロックピンアッシ	70415-5225-3	2
11	カバー1	70853-5822-1	1
12	カバー2	70853-5823-1	1



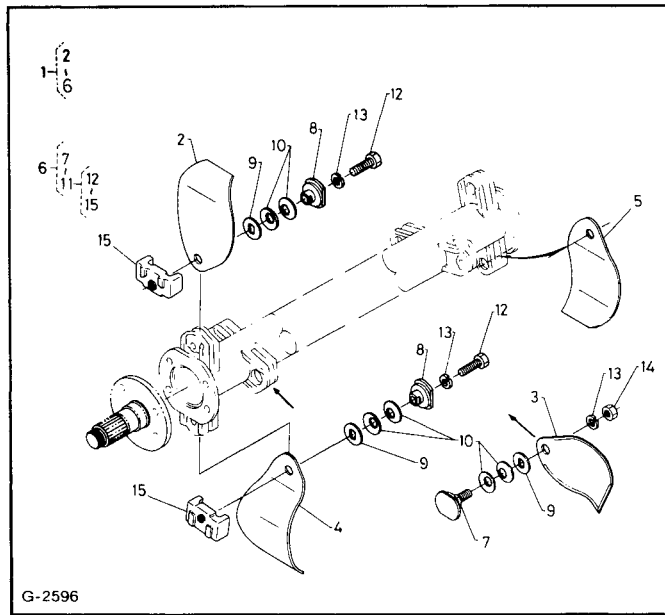


G-4196

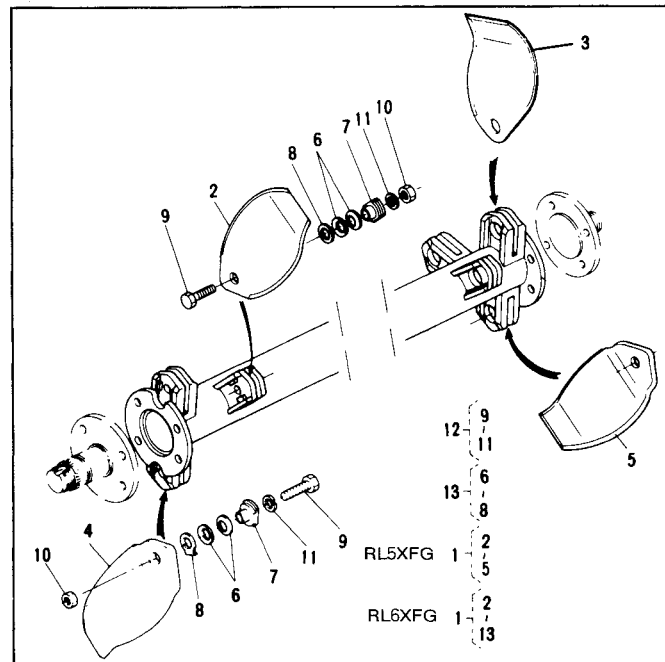
図番	品名	品番	数量				備考
			RL4BOG	RL5BOG	RL6BOG	RL7BOG	
1	耕うん爪セット	7C704-5545-1	1	—	—	—	②~⑤
1	耕うん爪セット	7C705-5545-1	—	1	—	—	②~⑤
1	耕うん爪セット	7C706-5545-1	—	—	1	1	②~⑤
2	耕うん爪(58A右)	7C705-5541-2	15	17	17	18	
3	耕うん爪(58A左)	7C705-5542-2	15	17	17	18	
4	耕うん爪(58C右)	7C705-5543-1	1	1	1	1	
5	耕うん爪(58C左)	7C705-5544-1	1	1	1	1	
6	爪取付け部品 1	70461-5555-1	2	2	2	2	⑦⑧
7	爪取付けナット	64135-9519-3	2	2	2	2	
8	バネ座金	04512-50100	2	2	2	2	
9	爪取付け部品 1	7C705-5565-1	28	32	32	34	⑩⑪
10	ピン(爪)	7C705-5562-1	28	32	32	34	
11	板バネ(爪)	7C705-5563-1	28	32	32	34	
12	ブレード(ターフカット右)	7C705-5536-1	1	1	1	1	
13	ブレード(ターフカット左)	7C705-5537-1	1	1	1	1	
14	爪取付け部品 1	7C705-5555-1	2	2	2	2	⑮⑯
15	爪取付けナット	64135-9519-3	2	2	2	2	
16	バネ座金	04512-50100	2	2	2	2	



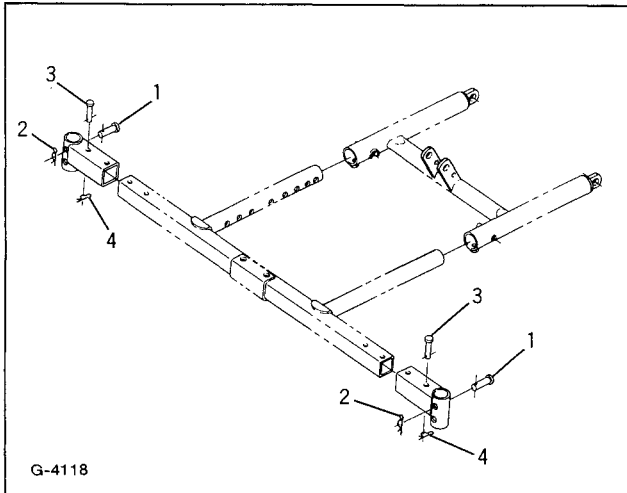
図番	品名	品番	数量		備考
			RL6G-E	RL7G-E	
1	なた爪アッシ	7C702-5540-0	1	—	②~⑥
1	なた爪アッシ	70471-5540-0	—	1	②~⑥
2	581号なた爪右	70451-5541-5	17	18	
3	581号なた爪左	70451-5542-5	17	18	
4	583号増幅爪右	70461-5543-4	1	1	
5	583号増幅爪左	70461-5544-4	1	1	
6	爪取付け部品1	70461-5555-0	36	38	④⑦⑧
7	爪取付けナット	64135-9519-3	36	38	
8	バネ座金	04512-50100	36	38	



図番	品名	品番	数量		備考
			RLXG-5XG	RL6XG-7XG	
1	14X正逆爪アッシ	70264-5753-1	1	—	②~⑥
1	16X正逆爪アッシ	70266-5753-1	—	1	②~⑥
2	593号正逆爪右	70264-5754-3	12	14	
3	593号正逆爪左	70264-5755-3	12	14	
4	594号正逆爪右	70264-5756-2	1	1	
5	594号正逆爪左	70264-5757-2	1	1	
6	爪取付け部品アッシ14X	70264-5758-2	1	—	⑦~⑩
6	爪取付け部品アッシ16X	70266-5758-2	—	1	⑦~⑩
7	カラー 1	70112-3265-3	22	26	
8	カラー 2	70112-3266-3	4	4	
9	カラー 3	70112-3267-1	26	30	
10	皿バネ	70112-3268-1	52	60	
11	アッシ 1	70264-5800-2	1	—	⑫~⑮
11	アッシ 2	70266-5800-2	—	1	⑫~⑮
12	ボルト	70314-5761-2	4	4	
13	バネ座金	04512-50400	26	30	
14	ナット	70314-5762-3	22	26	
15	座金	70264-5759-3	4	4	

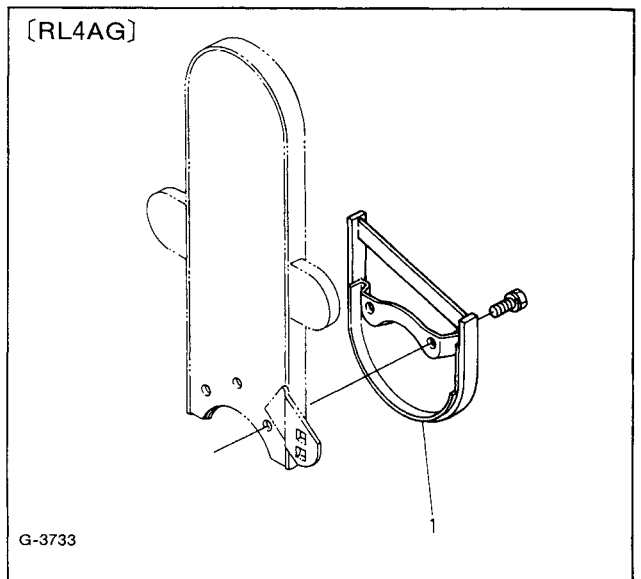


図番	品名	品番	数量		備考
			RL5XFG	RL6XFG	
1	正逆爪セット	70295-5754-1	1	—	②~⑤
1	16XF正逆爪アッシ	70268-5753-1	—	1	②~⑬
2	596-S 正逆爪 右	99022-5801-1	17	18	
3	596-S 正逆爪 左	99022-5802-1	17	18	
4	595号 正逆爪 右	99022-5804-1	1	1	
5	595号 正逆爪 左	99022-5803-1	1	1	
6	皿 バネ	70314-5757-4	72	76	
7	カラー 1	70314-5758-2	36	38	
8	カラー 2	70314-5759-3	36	38	
9	ボルト	70314-5761-2	36	38	
10	ナット	70314-5762-3	36	38	
11	バネ 座金	04512-50400	36	38	
12	爪取付け 部品 1	70314-5555-1	36	38	⑨~⑪
13	正逆爪 調整部品1	70314-5556-1	36	38	⑥~⑧



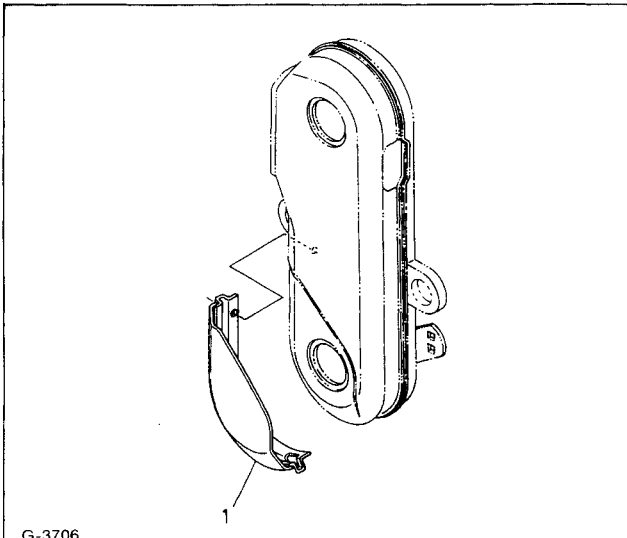
G-4118

図番	品名	品番	個数
1	頭付きピン	05122-51060	4
2	スナップピン	70404-5618-3	4
3	ピン	70155-5732-2	4
4	スナップピン	70404-5618-3	4



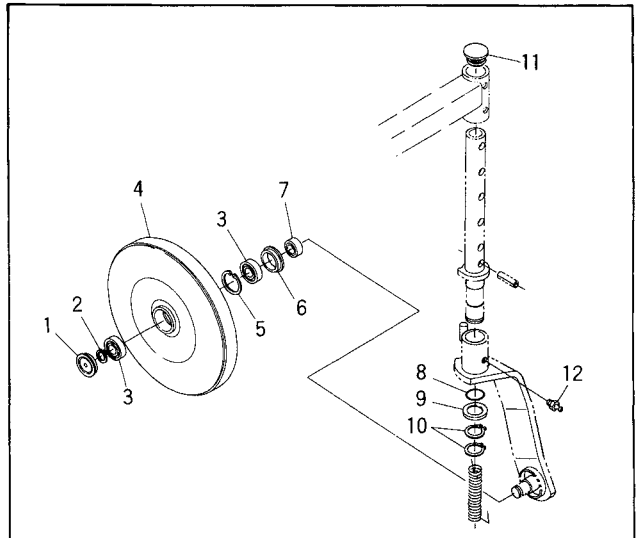
G-3733

図番	品名	品番	個数
1	カバー(2, ホゴ)	70184-5527-1	1



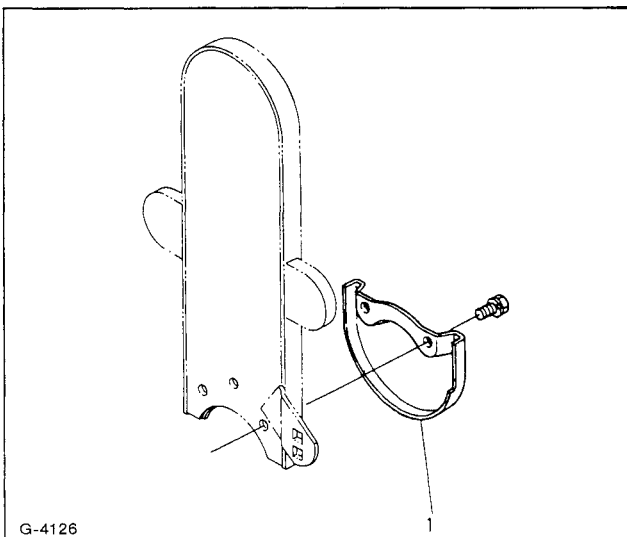
G-3706

図番	品名	品番	個数
1	カバー(1, ホゴ)	70155-5451-2	1



G-4151

図番	品名	品番	個数
1	キャップ	70451-5746-1	1
2	軸サークリップ	04612-10200	1
3	ボールベアリング	08131-06004	2
4	後2輪	70155-5744-1	1
5	穴サークリップ	04611-10420	1
6	車軸シール	41011-1552-3	1
7	オイルシール	09500-25428	1
8	Oリング	04811-50300	1
9	カバー(サークリップ)	70155-5745-2	1
10	軸サークリップ	04612-00340	2
11	キャップ	70155-5749-2	1
12	グリースニップル	50441-1132-1	1



G-4126

図番	品名	品番	個数
1	カバー(2, ホゴ)	70155-5527-4	1

70704-5752-1最終頁

## 補修用部品の供給年限について

---

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 純正部品を使いましょう

---

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

---

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

# 株式会社クボタ

本 社	社：大阪市浪速区敷津東 1 丁目 2 番 47 号	〒556	電(06)	648-2111
東 京 本 社	社：東京都中央区日本橋室町 3 丁目 1 番 3 号	〒103	電(03)	3245-3111
北 海 道 支 社	社：札幌市中央区北 3 条西 3 丁目 1 番地 44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東 北 支 社	社：仙台市青葉区本町 2 丁目 15 番 11 号	〒980	電(022)	267-9000
中 部 支 社	社：名古屋市中村区名駅 3 丁目 22 番 8 号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九 州 支 社	社：福岡市博多区博多駅前 3 丁目 2 番 8 号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札 幌 支 店	店：札幌市西区西町北 16 丁目 1 番 1 号	〒063	電(011)	662-2121
仙 台 支 店	店：名取市田高字原 182 番地の 1	〒981-12	電(022)	384-5151
東 京 支 店	店：浦和市西堀 5 丁目 2 番 36 号	〒338	電(048)	862-1121
大 阪 支 店	店：大阪府堺市緑ヶ丘北町 1 丁目 1 番 36 号	〒590	電(0722)	41-8506
岡 山 支 店	店：岡山市宍甘 275 番地	〒703	電(0862)	79-4511
福 岡 支 店	店：福岡市東区和白丘 2 丁目 2 番 76 号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺 製 造 所	所：堺市石津北町 64 番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工 場	場：宇都宮市平出工業団地 22 番地 2	〒321	電(0286)	61-1111
筑 波 工 場	場：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田 10 番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚 方 製 造 所	所：枚方市中宮大池 1 丁目 1 番 1 号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	：堺市築港新町 3 丁 8 番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田 10 番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	：北海道札幌郡広島町大曲工業団地 3 丁目 1 番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	：福岡市東区和白丘 2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
<b>株式会社クボタアグリ東北</b>				
	秋 田事業所：秋田市寺内字大小路 207-54	〒011	電(0188)	45-1601
	仙 台事業所：宮城県名取市田高字原 182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
<b>株式会社クボタアグリ東京</b>				
	東 京事業所：浦和市西堀 5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
	新 潟事業所：新潟市上所上 1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
<b>株式会社クボタアグリ大阪</b>				
	金 沢事業所：石川県松任市下柏野町 956-1	〒924	電(0762)	75-1121
	名 古 屋事業所：愛知県一宮市観音町 1-1	〒491	電(0586)	24-5111
	大 阪事業所：大阪府堺市緑ヶ丘北町 1 丁目 1 番 36 号	〒590	電(0722)	41-8550
<b>株式会社クボタアグリ中四国</b>				
	米 子事業所：米子市米原 7 丁目 1 番 1 号	〒683	電(0859)	33-5011
	岡 山事業所：岡山市宍甘 275	〒703	電(0862)	79-4511
	高 松事業所：香川県綾歌郡国分寺町国分字向 647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
<b>株式会社クボタアグリ九州</b>				
	福 岡事業所：福岡市東区和白丘 2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
	熊 本事業所：熊本県下益城郡富合町大字廻江 846-1	〒861-41	電(096)	357-6181

品番 7C704-5752-1

